

公共健康医学専攻(SPH)シラバス

2012年度

東京大学大学院医学系研究科

目 次

事 項		ページ
1. 授業科目の履修について		1
	1.修了要件	1
	2.履修手続き	1
2. 授業科目一覧		2
3. 時間割		3
4. 履修モデル		4～7
	「公衆衛生行政・管理」	4
	「保健アナリスト・コーディネーター」	5
	「臨床疫学・アウトカム評価」	6
	「医療情報・臨床工学」	7
5. シラバス		8～43
6. 公共健康医学専攻成績評価規則		44
7. 公共政策大学院との合併科目について		45～48

日程	
S P Hガイダンス	4月 4日 (水)
入進学者ガイダンス	4月 9日 (月)
大学院入学式	4月12日 (木)
夏学期	4月 5日 (木) ～ 7月31日 (火)
	前 半： 4月 5日 (木) ～ 6月 1日 (金)
	後 半： 6月 4日 (月) ～ 7月31日 (火)
定期健康診断	新入生： 5月15日 (火) ～ 5月24日 (木)
	在学生： 5月30日 (水) ～ 6月 5日 (火)
S P H研究室配属 (予定)	オリエンテーション：6月中旬～下旬
	希望調書提出 : 7月上旬～中旬
夏季休業期間	8月 1日 (水) ～ 9月30日 (日)
冬学期	10月 1日 (月) ～ 2月 8日 (金)
	前 半：10月 1日 (月) ～11月22日 (木)
	後 半：11月26日 (月) ～12月21日 (金) 1月 4日 (金) ～ 2月 8日 (金)
S P H課題研究論文	題目届提出期限：11月30日 (金)
	論文提出期限：12月21日 (金)
	発 表 会： 1月11日 (金)
学位記授与式	3月25日 (月) (予定)

時 限	1 時 限	8 : 4 0 ～ 1 0 : 1 0
	2 時 限	1 0 : 3 0 ～ 1 2 : 0 0
	3 時 限	1 3 : 0 0 ～ 1 4 : 3 0
	4 時 限	1 4 : 5 0 ～ 1 6 : 2 0
	5 時 限	1 6 : 4 0 ～ 1 8 : 1 0
	6 時 限	1 8 : 3 0 ～ 2 0 : 0 0

1. 授業科目の履修について

1. 修了要件

コ　　ー　　ス		1 年コース	2 年コース																																			
標準修業年限		1　　年	2　　年																																			
必 要 単 位 数		必修科目及び選択科目合わせて30単位以上																																				
修了要件	必修	①A：2科目＋B：4科目の計6科目11単位を履修 A：必須2科目																																				
		<table><tr><td>科目番号</td><td>科目名</td><td>単位</td></tr><tr><td>41218113</td><td>医学データの統計解析</td><td>2</td></tr><tr><td>41218322</td><td>環境健康医学</td><td>1</td></tr></table>		科目番号	科目名	単位	41218113	医学データの統計解析	2	41218322	環境健康医学	1																										
		科目番号	科目名	単位																																		
		41218113	医学データの統計解析	2																																		
		41218322	環境健康医学	1																																		
		B：下記の4つに分類されている必修科目を、各分類から1科目 ずつ計4科目(各分類1科目以上、計4科目以上履修も可)																																				
		<table><tr><td>分類</td><td>科目番号</td><td>科目名</td><td>単位</td></tr><tr><td rowspan="2">1</td><td>41218111</td><td>疫学研究と実践</td><td>2</td></tr><tr><td>41218115</td><td>医学研究のデザイン</td><td>2</td></tr><tr><td rowspan="3">2</td><td>41218211</td><td>精神保健学Ⅰ</td><td>2</td></tr><tr><td>41218213</td><td>健康教育学</td><td>2</td></tr><tr><td>41218215</td><td>老年社会科学Ⅰ（今年度休講）</td><td>2</td></tr><tr><td rowspan="2">3</td><td>41218218</td><td>医療倫理学Ⅰ</td><td>2</td></tr><tr><td>41218316</td><td>法医学・医事法学</td><td>2</td></tr><tr><td rowspan="2">4</td><td>41218311</td><td>健康医療政策学</td><td>2</td></tr><tr><td>41218312</td><td>医療情報システム学</td><td>2</td></tr></table>		分類	科目番号	科目名	単位	1	41218111	疫学研究と実践	2	41218115	医学研究のデザイン	2	2	41218211	精神保健学Ⅰ	2	41218213	健康教育学	2	41218215	老年社会科学Ⅰ（今年度休講）	2	3	41218218	医療倫理学Ⅰ	2	41218316	法医学・医事法学	2	4	41218311	健康医療政策学	2	41218312	医療情報システム学	2
		分類	科目番号	科目名	単位																																	
		1	41218111	疫学研究と実践	2																																	
			41218115	医学研究のデザイン	2																																	
2	41218211	精神保健学Ⅰ	2																																			
	41218213	健康教育学	2																																			
	41218215	老年社会科学Ⅰ（今年度休講）	2																																			
3	41218218	医療倫理学Ⅰ	2																																			
	41218316	法医学・医事法学	2																																			
4	41218311	健康医療政策学	2																																			
	41218312	医療情報システム学	2																																			
—																																						
② 課題研究（6単位） （2年次に履修申請すること）																																						
選択科目	①選択科目（1年コースの課題研究は選択科目扱い）																																					
	②他専攻・他研究科（特に公共政策大学院）科目（8単位まで）																																					

注意事項 1学期間に25単位を超えて履修科目を登録することはできません。

2. 履修手続き

（1）履修登録手続き

4月20日（金）までに学務システム（通称：UT-mate）上で履修登録手続きを行ってください。

<https://ut-gakumu.adm.u-tokyo.ac.jp/websys/campus>

（2）冬学期科目の履修追加・修正登録手続き（10月1日（月）～22日（月））

希望者は（1）同様、学務システム（通称：UT-mate）上で手続きを行ってください。

2. 授業科目一覧

※講義室・講義日程が変更となる場合があるので掲示等を必ず確認すること。

頁	科目番号	授 業 科 目	単位	学期	曜日	時限等	担当教員	開始日
P. 8	41218111	疫学研究と実践	2	夏	金	2	佐々木 敏 教授	4/6
P. 9	41218112	予防保健の実践と評価	2	夏休		2～4	佐々木 敏 教授	8/6
P.10	41218113	医学データの統計解析	2	夏前	木	3・4	大橋 靖雄 教授 松山 裕 准教授	4/5
P.11	41218114	医学統計学演習	2	夏後	木	3・4	松山 裕 准教授 柴田 大朗 非常勤講師	6/7
P.12	41218115	医学研究のデザイン	2	冬前	火	3・4	大橋 靖雄 教授 久保田 潔 非常勤講師 松岡 浄 非常勤講師	10/2
P.13	41218116	臨床疫学	2	夏後	水	1・2	橋本 英樹 教授	6/6
P.14	41218117	臨床疫学・経済学演習	1	冬後	木	3・4	橋本 英樹 教授	11/29
P.15	41218118	保健医療経済学	2	夏前	水	1・2	橋本 英樹 教授	4/11
P.16	41218120	医療コミュニケーション学	2	夏前	火	3・4	木内 貴弘 教授 石川 ひろの 准教授	4/10
P.18	41218121	医療コミュニケーション学実習	1	夏後	水	3～5	木内 貴弘 教授 石川 ひろの 准教授	6/6
P.19	41218123	社会と健康	2	冬	木	2	橋本 英樹 教授	10/4
P.20	41218124	医療技術評価学演習	1	夏休	集中		橋本 英樹 教授	9/10
P.21	41218125	医療経営学演習	1	冬前	木	3・4	橋本 英樹 教授	10/4
P.22	41218211	精神保健学Ⅰ	2	夏	火	5	川上 憲人 教授 島津 明人 准教授	4/10
P.23	41218212	精神保健学Ⅱ	2	冬	火	5	島津 明人 准教授 川上 憲人 教授	10/2
P.24	41218213	健康教育学	2	冬前	水	1・2	小林 廉毅 教授 非常勤講師	10/17
P.25	41218217	健康増進科学	2	夏後	火	3・4	李 廷秀 准教授	6/5
P.26	41218218	医療倫理学Ⅰ	2	冬前	金	5・6	赤林 朗 教授 児玉 聡 講師	10/5
P.27	41218219	医療倫理学Ⅱ	2	冬後	金	5・6	赤林 朗 教授 児玉 聡 講師	12/7
P.28	41218311	健康医療政策学	2	冬	月	5	小林 廉毅 教授 東 尚弘 准教授	10/1
P.29	41218312	医療情報システム学	2	夏前	金	3・4	大江 和彦 教授	4/13
P.30	41218313	医療情報システム学実習	1	冬前	火	1・2	大江 和彦 教授	10/2
P.31	41218314	臨床情報工学	2	夏	月	5	小山 博史 教授	4/16
P.32	41218315	臨床情報工学実習	1	冬前	金	3・4	小山 博史 教授	10/5
P.33	41218316	法医学・医事法学	2	夏	月	3	吉田 謙一 教授	4/16
P.34	41218317	法医学・医事法学演習	2	冬	月	3・4	吉田 謙一 教授	10/1
P.35	41218318	医療安全管理学	1	夏前	水	3・4	児玉 安司 特任教授	4/11
P.36	41218319	医療安全管理学実習*	0.5	夏休	集中	1～6	児玉 安司 特任教授	9/24
P.37	41218320	健康危機管理学	1	夏後	木	1・2	小林 廉毅 教授	5/24
P.38	41218321	保健行政・健康危機管理学実習	2	夏休	集中		小林 廉毅 教授	
P.39	41218322	環境健康医学	1	冬前	月	2	遠山 千春 教授	10/1
P.40	41218411	インターンシップ	2				大橋 靖雄 教授	
P.42	41218412	公共健康医学特論	2	夏	月	4	各教員	4/16
P.43	41218511	課題研究	6	通年			各指導教員	

* 講義室は、原則、医学部教育研究棟13階公共健康医学専攻(SPH)講義室

「41218218・219 医療倫理学Ⅰ・Ⅱ」については、医学部教育研究棟13階第6セミナー室

*「健康社会学」、「老年社会科学Ⅰ」、「老年社会科学Ⅱ」は休講とする。

3. 時間割(平成24年度)

			夏学期(4月～7月)		冬学期(10月～2月)					
曜日	時限		前半8週	後半8週	前半8週	後半8週				
			4/5～5/25	6/4～7/27	10/1～11/22	11/26～12/21, 1/4～2/1				
			予備: 5/28～6/1	予備: 7/30～7/31		予備: 2/4～8				
月	1	8:40 10:10						1	月	
	2	10:30 12:00			41218322-環境健康医学			2		
	3	13:00 14:30	41218316-法医学・医事法学*3			41218317-法医学・医事法学演習		3		
	4	14:50 16:20	41218412-公共健康医学特論					4		
	5	16:40 18:10	41218314-臨床情報工学			41218311-健康医療政策学*4		5		
	6	18:30 20:00						6		
火	1	8:40 10:10	41218215-老年社会科学Ⅰ*2 (休講)		41218313-医療情報システム学実習	41218216-老年社会科学Ⅱ(休講)		1	火	
	2	10:30 12:00						2		
	3	13:00 14:30	41218120-医療コミュニケーション学	41218217-健康増進科学	41218115-医学研究のデザイン*1			3		
	4	14:50 16:20					4			
	5	16:40 18:10	41218211-精神保健学Ⅰ*2			41218212-精神保健学Ⅱ		5		
	6	18:30 20:00						6		
水	1	8:40 10:10	41218118-保健医療経済学	41218116-臨床疫学	41218213-健康教育学*2				1	水
	2	10:30 12:00							2	
	3	13:00 14:30	41218318-医療安全管理学	41218121-医療コミュニケーション学実習 (計8回)					3	
	4	14:50 16:20							4	
	5	16:40 18:10							5	
	6	18:30 20:00							6	
木	1	8:40 10:10		41218320-健康危機管理学					1	木
	2	10:30 12:00			41218123-社会と健康			2		
	3	13:00 14:30	41218113-医学データの統計解析	41218114-医学統計学演習	41218125-医療経営学演習	41218117-臨床疫学・経済学演習		3		
	4	14:50 16:20					4			
	5	16:40 18:10					5			
	6	18:30 20:00					6			
金	1	8:40 10:10				41218214-健康社会学(休講)			1	金
	2	10:30 12:00	41218111-疫学研究と実践*1					2		
	3	13:00 14:30	41218312-医療情報システム学*4		41218315-臨床情報工学実習			3		
	4	14:50 16:20					4			
	5	16:40 18:10			41218218-医療倫理学Ⅰ*3	41218219-医療倫理学Ⅱ		5		
	6	18:30 20:00					6			

夏季休業期間	8月	第2週	41218112-予防保健の実践と評価(8/6～10)
	9月	第1週	41218124-医療技術評価学演習(9/10～12)
		第2～3週	41218321-保健行政・健康危機管理学実習(9月上旬～中旬予定)
		第5週	41218319-医療安全管理学実習(9/24～28)

4. 履修モデル

履修モデル「公衆衛生行政・管理」

			夏学期(4月～7月)		冬学期(10月～2月)				
曜日	時限	前半8週		後半8週		前半8週		後半8週	
		4/5～5/25		6/4～7/27		10/1～11/22		11/26～12/21, 1/4～2/1	
		予備: 5/28～6/1		予備: 7/30～7/31				予備: 2/4～8	
月	1	8:40 10:10						1	月
	2	10:30 12:00			41218322-環境健康医学			2	
	3	13:00 14:30	41218316-法医学・医事法学*3		41218317-法医学・医事法学演習			3	
	4	14:50 16:20	41218412-公共健康医学特論					4	
	5	16:40 18:10	41218314-臨床情報工学		41218311-健康医療政策学*4			5	
	6	18:30 20:00						6	
火	1	8:40 10:10	41218215-老年社会科学Ⅰ*2 (休講)			41218313-医療情報システム学実習	41218216-老年社会科学Ⅱ(休講)	1	火
	2	10:30 12:00						2	
	3	13:00 14:30	41218120-医療コミュニケーション学	41218217-健康増進科学	41218115-医学研究のデザイン*1		3		
	4	14:50 16:20					4		
	5	16:40 18:10	41218211-精神保健学Ⅰ*2		41218212-精神保健学Ⅱ		5		
	6	18:30 20:00					6		
水	1	8:40 10:10	41218118-保健医療経済学	41218116-臨床疫学	41218213-健康教育学*2			1	水
	2	10:30 12:00					2		
	3	13:00 14:30	41218318-医療安全管理学	41218121-医療コミュニケーション学実習 (計8回)			3		
	4	14:50 16:20					4		
	5	16:40 18:10					5		
	6	18:30 20:00					6		
木	1	8:40 10:10		41218320-健康危機管理学	41218123-社会と健康			1	木
	2	10:30 12:00	2						
	3	13:00 14:30	41218113-医学データの統計解析	41218114-医学統計学演習	41218125-医療経営学演習	41218117-臨床疫学・経済学演習	3		
	4	14:50 16:20					4		
	5	16:40 18:10					5		
	6	18:30 20:00					6		
金	1	8:40 10:10			41218214-健康社会学 (休講)			1	金
	2	10:30 12:00	41218111-疫学研究と実践*1					2	
	3	13:00 14:30	41218312-医療情報システム学*4		41218315-臨床情報工学実習		3		
	4	14:50 16:20					4		
	5	16:40 18:10			41218218-医療倫理学Ⅰ*3	41218219-医療倫理学Ⅱ	5		
	6	18:30 20:00					6		

夏季休業期間	8月	第2週	41218112-予防保健の実践と評価(8/6～10)
	9月	第1週	41218124-医療技術評価学演習(9/10～12)
		第2～3週	41218321-保健行政・健康危機管理学実習(9月上旬～中旬予定)
		第5週	41218319-医療安全管理学実習(9/24～28)

履修モデル「保健アナリスト・コーディネーター」

		夏学期(4月～7月)		冬学期(10月～2月)			
曜日	時限	前半8週	後半8週	前半8週	後半8週		
		4/5～5/25	6/4～7/27	10/1～11/22	11/26～12/21, 1/4～2/1		
		予備: 5/28～6/1	予備: 7/30～7/31		予備: 2/4～8		
月	1 8:40 10:10					1	月
	2 10:30 12:00			41218322-環境健康医学		2	
	3 13:00 14:30	41218316-法医学・医事法学*3		41218317-法医学・医事法学演習		3	
	4 14:50 16:20	41218412-公共健康医学特論				4	
	5 16:40 18:10	41218314-臨床情報工学		41218311-健康医療政策学*4		5	
	6 18:30 20:00					6	
火	1 8:40 10:10	41218215-老年社会科学Ⅰ*2 (休講)		41218313-医療情報システム学実習	41218216-老年社会科学Ⅱ(休講)	1	火
	2 10:30 12:00					2	
	3 13:00 14:30	41218120-医療コミュニケーション学	41218217-健康増進科学	41218115-医学研究のデザイン*1		3	
	4 14:50 16:20					4	
	5 16:40 18:10	41218211-精神保健学Ⅰ*2		41218212-精神保健学Ⅱ		5	
	6 18:30 20:00					6	
水	1 8:40 10:10	41218118-保健医療経済学	41218116-臨床疫学	41218213-健康教育学*2		1	水
	2 10:30 12:00					2	
	3 13:00 14:30	41218318-医療安全管理学	41218121-医療コミュニケーション学実習 (計8回)			3	
	4 14:50 16:20					4	
	5 16:40 18:10					5	
	6 18:30 20:00					6	
木	1 8:40 10:10		41218320-健康危機管理学			1	木
	2 10:30 12:00			41218123-社会と健康		2	
	3 13:00 14:30	41218113-医学データの統計解析	41218114-医学統計学演習	41218125-医療経営学演習	41218117-臨床疫学・経済学演習	3	
	4 14:50 16:20					4	
	5 16:40 18:10					5	
	6 18:30 20:00					6	
金	1 8:40 10:10			41218214-健康社会学(休講)		1	金
	2 10:30 12:00	41218111-疫学研究と実践*1				2	
	3 13:00 14:30	41218312-医療情報システム学*4		41218315-臨床情報工学実習		3	
	4 14:50 16:20					4	
	5 16:40 18:10			41218218-医療倫理学Ⅰ*3	41218219-医療倫理学Ⅱ	5	
	6 18:30 20:00					6	

夏季休業期間	8月	第2週	41218112-予防保健の実践と評価(8/6～10)
	9月	第1週	41218124-医療技術評価学演習(9/10～12)
		第2～3週	41218321-保健行政・健康危機管理学実習(9月上旬～中旬予定)
		第5週	41218319-医療安全管理学実習(9/24～28)

履修モデル「臨床疫学・アウトカム評価」

			夏学期(4月～7月)		冬学期(10月～2月)			
曜日	時限		前半8週	後半8週	前半8週	後半8週		
			4/5～5/25	6/4～7/27	10/1～11/22	11/26～12/21, 1/4～2/1		
			予備: 5/28～6/1	予備: 7/30～7/31		予備: 2/4～8		
月	1	8:40 10:10					1	月
	2	10:30 12:00			41218322-環境健康医学		2	
	3	13:00 14:30	41218316-法医学・医事法学*3		41218317-法医学・医事法学演習		3	
	4	14:50 16:20	41218412-公共健康医学特論				4	
	5	16:40 18:10	41218314-臨床情報工学		41218311-健康医療政策学*4		5	
	6	18:30 20:00					6	
火	1	8:40 10:10	41218215-老年社会科学Ⅰ*2 (休講)		41218313-医療情報システム学実習	41218216-老年社会科学Ⅱ(休講)	1	火
	2	10:30 12:00					2	
	3	13:00 14:30	41218120-医療コミュニケーション学	41218217-健康増進科学	41218115-医学研究のデザイン*1		3	
	4	14:50 16:20					4	
	5	16:40 18:10	41218211-精神保健学Ⅰ*2		41218212-精神保健学Ⅱ		5	
	6	18:30 20:00					6	
水	1	8:40 10:10	41218118-保健医療経済学	41218116-臨床疫学	41218213-健康教育学*2		1	水
	2	10:30 12:00					2	
	3	13:00 14:30	41218318-医療安全管理学	41218121-医療コミュニケーション学実習 (計8回)			3	
	4	14:50 16:20					4	
	5	16:40 18:10					5	
	6	18:30 20:00					6	
木	1	8:40 10:10		41218320-健康危機管理学			1	木
	2	10:30 12:00			41218123-社会と健康		2	
	3	13:00 14:30	41218113-医学データの統計解析	41218114-医学統計学演習	41218125-医療経営学演習	41218117-臨床疫学・経済学演習	3	
	4	14:50 16:20					4	
	5	16:40 18:10					5	
	6	18:30 20:00					6	
金	1	8:40 10:10			41218214-健康社会学(休講)		1	金
	2	10:30 12:00	41218111-疫学研究と実践*1				2	
	3	13:00 14:30	41218312-医療情報システム学*4		41218315-臨床情報工学実習		3	
	4	14:50 16:20					4	
	5	16:40 18:10			41218218-医療倫理学Ⅰ*3	41218219-医療倫理学Ⅱ	5	
	6	18:30 20:00					6	

夏季休業期間	8月	第2週	41218112-予防保健の実践と評価(8/6～10)
	9月	第1週	41218124-医療技術評価学演習(9/10～12)
		第2～3週	41218321-保健行政・健康危機管理学実習(9月上旬～中旬予定)
		第5週	41218319-医療安全管理学実習(9/24～28)

履修モデル「医療情報・臨床工学」

			夏学期(4月～7月)		冬学期(10月～2月)					
曜日	時限	前半8週		後半8週		前半8週		後半8週		
		4/5～5/25		6/4～7/27		10/1～11/22		11/26～12/21, 1/4～2/1		
		予備: 5/28～6/1		予備: 7/30～7/31				予備: 2/4～8		
月	1	8:40 10:10						1	月	
	2	10:30 12:00			41218322-環境健康医学			2		
	3	13:00 14:30	41218316-法医学・医事法学*3			41218317-法医学・医事法学演習				3
	4	14:50 16:20	41218412-公共健康医学特論							4
	5	16:40 18:10	41218314-臨床情報工学			41218311-健康医療政策学*4		5		
	6	18:30 20:00						6		
火	1	8:40 10:10	41218215-老年社会科学Ⅰ*2 (休講)			41218313-医療情報システム学実習	41218216-老年社会科学Ⅱ(休講)	1	火	
	2	10:30 12:00								2
	3	13:00 14:30	41218120-医療コミュニケーション学	41218217-健康増進科学	41218115-医学研究のデザイン*1		3			
	4	14:50 16:20					4			
	5	16:40 18:10	41218211-精神保健学Ⅰ*2			41218212-精神保健学Ⅱ		5		
	6	18:30 20:00					6			
水	1	8:40 10:10	41218118-保健医療経済学	41218116-臨床疫学	41218213-健康教育学*2			1	水	
	2	10:30 12:00						2		
	3	13:00 14:30	41218318-医療安全管理学	41218121-医療コミュニケーション学実習 (計8回)			3			
	4	14:50 16:20					4			
	5	16:40 18:10					5			
	6	18:30 20:00					6			
木	1	8:40 10:10		41218320-健康危機管理学				1	木	
	2	10:30 12:00			41218123-社会と健康		2			
	3	13:00 14:30	41218113-医学データの統計解析	41218114-医学統計学演習	41218125-医療経営学演習	41218117-臨床疫学・経済学演習	3			
	4	14:50 16:20					4			
	5	16:40 18:10					5			
	6	18:30 20:00					6			
金	1	8:40 10:10			41218214-健康社会学 (休講)			1	金	
	2	10:30 12:00	41218111-疫学研究と実践*1				2			
	3	13:00 14:30	41218312-医療情報システム学*4		41218315-臨床情報工学実習		3			
	4	14:50 16:20					4			
	5	16:40 18:10			41218218-医療倫理学Ⅰ*3	41218219-医療倫理学Ⅱ	5			
	6	18:30 20:00					6			

夏季休業期間	8月	第2週	41218112-予防保健の実践と評価(8/6～10)
	9月	第1週	41218124-医療技術評価学演習(9/10～12)
		第2～3週	41218321-保健行政・健康危機管理学実習(9月上旬～中旬予定)
		第5週	41218319-医療安全管理学実習(9/24～28)

5. シラバス

科 目 名	疫学研究と実践 [科目番号：41218111]		
学 期	夏学期	単 位 数	2 単位
曜日・授業時間帯	金曜・2 時限		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	佐々木敏		
授 業 の 目 的	地域・職域など、社会（生活環境下）で実施する疫学研究の理論と方法についての基本を理解することを目的とする。この種の疫学研究を実施・実践する際や利用する際に考慮すべき点を理解し、その具体的な方法と技術について学ぶ。 主な内容は次の通り：予防保健と疫学の関連、疫学的思考、疫学研究論文の読み方、疫学研究デザイン、測定誤差の種類と対策、疾患からみた疫学研究、生活要因からみた疫学研究、保健業務（特定保健指導等）における疫学研究の考え方と方法、保健業務や予防活動への研究成果の利用方法、その他。		
授 業 の 方 法	・各回ひとつのテーマを選んで講義を行う。 ・テーマ毎に資料が配布される。 ・5 回目から 14 回目までは毎回講義後に小レポートが課される。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	1) 4/6 予防保健と疫学（序論） 2) 4/13 予防保健と疫学（歴史と役割） 3) 4/20 記述疫学の目的と方法 4) 4/27 生態学的研究の目的と方法 5) 5/11 横断研究の目的と方法 6) 5/18 測定誤差とその具体的な対策（1） 7) 5/25 測定誤差とその具体的な対策（2） 8) 6/1 症例対照研究の目的と方法 9) 6/8 コホート研究の目的と方法 10) 6/15 介入研究の目的と方法（1） 11) 6/22 介入研究の目的と方法（2） 12) 6/29 レビュー・メタ・アナリシスの目的と方法（1） 13) 7/6 レビュー・メタ・アナリシスの目的と方法（2） 14) 7/13 結果の予防保健活動への活用 15) 7/20 まとめ （追記）第 5 回目以後は小レポートの発表が随時加わる。		
教科書・参考書等	（参考書）わかりやすい EBN と栄養疫学. 佐々木敏/著（同文書院）		
成績評価の方法	出席（50%）、レポート（50%）で評価する。		
他の授業との関連	「予防保健の実践と評価」を学ぶための必須の基礎理論となる。 「医学データの統計解析」、「健康教育学」と関連する。		

科 目 名	予防保健の実践と評価 [科目番号：41218112]		
学 期	夏季休業期間	単 位 数	2単位
曜日・授業時間帯	8月6～10日の2～4時限		
場 所	医学部教育研究棟13階 公共健康医学専攻（SPH）講義室		
担 当 教 員	佐々木敏		
授 業 の 目 的	地域・職域などをフィールドとして行う疫学研究や予防保健領域の実践活動の計画・実践・評価の方法、政策への活用などについて、さまざまな実例を用いて、実践者・研究者からの紹介を通じて学ぶ。理論だけでは解決できない現実に対して科学性を保ちながらどのように対処するかという実践的な視点からの予防保健の知識や技術の獲得を主な目的とする。		
授 業 の 方 法	・各回1テーマを選んで講義並びに討論（講師との質疑応答）を行う。 ・テーマごとに資料が配布される。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	1) 8/6 科学としての予防保健・保健実践活動：その理論、技術、注意点について実例を交えながら紹介する(総論)。 2) 8/7 実生活・実社会の中で行う介入試験：実生活・実社会の中で行う介入試験はどのように計画され、実施されるべきかについて沖縄における食事介入研究を例として学ぶ。 3) 8/8 地域で行う大規模観察研究：わが国における代表的なコホート研究である久山町研究を例に、研究の意義、その歴史と実際、求められる技術などについて学ぶ。 4) 8/9 学校・職域などで行う生活習慣改善活動とその評価法：小学生や職員の生活習慣改善プログラムを例に、現場との連携の重要性やその技術、評価法などを中心に学ぶ。 5) 8/10 公衆衛生行政における疫学研究の意味と役割：公衆衛生行政の視点から、疫学研究や保健分野の調査・研究のあり方とその課題、その技術について学ぶ。 初回を除き、すべての日で、担当教員による基礎知識に関する講義、外来講師（実践者・研究者）による講義、外来講師を交えた討論を行う。 （注意）期日と内容は変更がありうる。公共健康医学専攻以外の学生は7月下旬に担当教官宛に事前確認をされたい。		
教科書・参考書等	講義毎に異なる。適宜指示する。		
成績評価の方法	出席(50%)、講義内で行う討論での質問・意見の質と量(50%)で評価する。		
他の授業との関連	「疫学研究と実践」で学んだ知識・理論を実践につなげられる能力を養うことを目的とする。 「医学データの統計解析」「健康教育学」、「健康医療政策学」と関連する。		

科 目 名	医学データの統計解析 [科目番号：4 1 2 1 8 1 1 3]		
学 期	夏学期	単 位 数	2 単位
曜日・授業時間帯	木曜・3～4 時限		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	大橋靖雄、松山 裕		
授 業 の 目 的	統計的推測の基礎とともに、医学研究で日常的に用いられる統計解析手法、及びやや高度ながら身に付けておくべき統計解析手法について、実例を中心に教え、医学論文を読むうえで必須となる統計基礎知識を習得させると同時に、自らが統計解析を行ううえでの基礎能力を身に付けることを目的とする。		
授 業 の 方 法	・ テーマごとに資料が配布される。適宜、参考書を用いた解説を加える。 ・ 毎回の講義に関連したミニレポートを毎週提出すること。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	4 月 5 日 医学研究における統計学の活用、仮説検定の考え方 4 月 19 日 治療効果・曝露効果の指標と 95%信頼区間 4 月 26 日 2 群の比較 5 月 10 日 層別解析の考え方：メタアナリシス入門 ロジスティック回帰 5 月 17 日 実験データの解析：分散分析入門 相関と回帰 5 月 24 日 生存時間解析 5 月 31 日 経時データ解析入門、サンプルサイズ設計 期末試験の日時は未定（例年は 8 月初め）		
教科書・参考書等	初級者向け参考書 ・ はじめて学ぶ医療統計学. 折笠秀樹 監訳 (総合医学社) ・ 一歩進んだ医療統計学. 折笠秀樹 監訳 (総合医学社) 中級者以上向け参考書 ・ 医学研究における実用統計学. DG Altman 著 木船・佐久間訳 (サイエンティスト社) ・ 臨床試験のデザインと解析. JL Fleiss 著 KR 研究会訳 (アーム) ・ 医師のための臨床統計学 基礎編. 大橋靖雄 編著 医歯薬出版株式会社		
成績評価の方法	期末試験 (70%)、毎回の小レポート (10%)、出席 (20%) で評価する。		
他の授業との関連	・ 「医学統計学演習」履修のための基礎となる。 ・ 「疫学研究の実践」、「医学研究のデザイン」、「臨床疫学」、「保健医療経済学」と関連する。 ・ 初級者は健康総合科学科 3 年生に対する講義「疫学・生物統計学 (水曜日: 13:00-16:20)」の履修も勧める。		

科目名	医学統計学演習 [科目番号：41218114]		
学期	夏学期	単位数	2単位
曜日・授業時間帯	木曜・3～4時限		
場所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担当教員	松山 裕、柴田大朗 (非常勤)		
授業の目的	「医学データの統計解析」で講義された主要な統計手法について、実例を用いて統計解析ソフト JMP で演習を行う。 また、実際の新医薬品申請資料をグループ内で検討することで、統計解析計画書・報告書の作成実習を行い、その成果に対して討論 (ディベート) を通じて理解を深める。		
授業の方法	- 最初に JMP の使用についての演習を行う。 - 前半は各テーマについて簡単なインストラクションを行い、ついで実例を用いた解析演習を行い、レポートを作成する。 - 後半では、統計解析計画書・報告書を作成し、その評価を相互に行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	6月7日 JMP 入門 6月14日 2群の比較 6月21日 相関と回帰、分散分析 6月28日 分割表の解析とロジスティック回帰 7月5日 生存時間解析 7月12日 医薬品審査の概要と実際 (後半は医薬品審査実習) 7月19日 医薬品審査実習 7月26日 発表会		
教科書・参考書等	(参考書) 「医学データの統計解析」と同様 - SAS によるデータ解析入門 (東大出版会) - SAS による実験データの解析 (東大出版会) - 生存時間解析：SAS による生物統計 (東大出版会)		
成績評価の方法	出席とレポートで合・否判定する。		
他の授業との関連	「医学データの統計解析」履修を条件とする。 「医学研究のデザイン」と関連する。		

科 目 名	医学研究のデザイン [科目番号：4 1 2 1 8 1 1 5]		
学 期	冬学期	単 位 数	2 単位
曜日・授業時間帯	火曜・3～4 時限 (8 週)		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	大橋靖雄、久保田潔 (兼担)、松岡 淨 (非常勤)		
授 業 の 目 的	疫学研究・臨床試験のデザインと実際の研究運営についての講義とともに、事例研究 (ケーススタディ) を行う。プロトコル・シノプスを作成する演習を行い、その結果を討論により検討する。 主要雑誌に掲載される論文について、特にデザインについて理解するための基礎知識を習得し、共同作業でプロトコルを策定できる能力並びに研究事務局に参画するために必要とされる能力を磨くことを目指す。		
授 業 の 方 法	・ 各回テーマ毎に講義を行い、宿題 (小レポート) を課す。 ・ プロトコルシノプス作成演習課題を 1 1 月初めに提示する。グループにて作成し最終日に報告する。これを題材に討議を行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	10/02 研究デザインの分類と特徴 測定の信頼性と標準化 10/09 臨床試験のデザインとプロトコル作成 その 1 臨床試験のデザインとプロトコル作成 その 2 10/16 臨床試験のデザインとプロトコル作成 その 3 臨床試験のデザインとプロトコル作成 その 4 10/23 CONSORT による論文のチェック 疫学研究のデザインとプロトコル作成 その 1 10/30 疫学研究のデザインとプロトコル作成 その 2 STROBE による論文のチェック 11/06 薬剤疫学 その 1 その 2 11/13 データマネージメントと品質管理 研究組織と運営 11/20 演習報告 その 1 演習報告 その 2		
教科書・参考書等	各講義毎に異なるので適宜指示する。ただし以下を国際的にも評価の高い一般的な教科書として推薦する。 Hulley et al. (著) 木原・木原訳：医学的研究のデザイン、メディカルサイエンスインターナショナル、2009.		
成績評価の方法	出席 (50%)、レポート・演習報告 (50%) で評価する。		
他の授業との関連	「疫学研究と実践」、「臨床疫学」と関連する。		

科 目 名	臨床疫学 [科目番号：41218116]		
学 期	夏学期後半	単 位 数	2 単位
曜日・授業時間帯	水曜・1・2時限（8週）：		
場 所	医学部・教育研究棟 13 階 SPH 講義室		
担 当 教 員	橋本英樹 野口晴子（早稲田大学政治経済学術院 教授） 康永秀生（医療経営政策学寄附講座 准教授）		
授 業 の 目 的	実地診療・公衆衛生活動における計画・評価を、エビデンスに基づいて実施するには、エビデンスを吟味すること、自らエビデンスを構築できること、それらを患者・消費者・医療関係者・政策決定者などとコミュニケーションできることが求められる。本講義では、そのための初歩的知識や枠組みを身につけてもらうことを目的とする。 具体的には、臨床疫学の基本的知識、問題設定と文献検索、論文の批判的吟味、臨床意思決定と費用効果分析、アウトカム研究と医療の質評価、クリティカルパスなど臨床標準化、医療制度の政策的評価、社会疫学、リスクコミュニケーションなどをテーマとして取り扱う。		
授 業 の 方 法	原則として、事前に渡された関連文献を熟読してくること。それを前提として講義で基礎的知識を提供・整理したのち、既存の研究を題材にディスカッションをしてもらい知識の体系化を図る。コース取得希望者には事前に reading material package を講義 2 週間前に配布する予定（なお package を受けとって以降、途中での単位取り下げは原則認めない）		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	1) ガイダンス、診断・治療の臨床疫学（6月6日1限） 2) 因果関係・バイアス・偶然誤差（6月6日2限） 3) 疫学研究のデザイン（6月13日1限） 4) 予防医学の臨床疫学（6月13日2限） 5) 批判的吟味・文献検索・系統的レビューとメタ分析（6月20日1限） 6) 臨床判断学と薬剤疫学（6月20日2限） 7) 臨床試験と技術評価（6月27日1限） 8) アウトカム研究と医療の質評価（6月27日2限） 9) 計量経済学手法の応用 その1（野口）（7月4日1限） 10) 計量経済学手法の応用 その2（野口）（7月4日2限） 11) 患者由来アウトカム・QOL 尺度を用いた臨床評価（7月11日1限） 12) 質的研究と計量的研究（7月11日2限） 13) 生活習慣病・疾病管理・健康教育の介入的疫学研究（7月18日1限） 14) 大型データベースによる臨床疫学（康永）（7月18日2限） 15) EBMとリスクコミュニケーション（7月25日1限） 2限は予備		
教科書・参考書等	1) 臨床疫学—EBM 実践のための必須知識 ロバート・H. フレッチャー（著）、スーザン・W. フレッチャー（著）、エドワード・H. ワグナー（著）、福井 次矢（翻訳） 医学書院 2) 「ロスマンの疫学」 ケネス・ロスマン（著）矢野栄二、橋本英樹（監訳）、篠原出版新社 3) その他資料（関連論文など）を授業開始時に配布		
成績評価の方法	課題提出により 70%、講義・ディスカッション内での発言を 30%で評価。		
他の授業との関連	夏学期「疫学研究と実践」「医学データの統計解析」「医学研究のデザイン」などに関連		

科 目 名	臨床疫学・経済学演習 [科目番号：41218117]		
学 期	冬学期後半	単 位 数	1単位
曜日・授業時間帯	木曜・3～4 時限 (8 週)		
場 所	医学部・教育研究棟 13 階 SPH 講義室		
担 当 教 員	橋本英樹 協力 康永秀生 (医療経営政策学寄附講座)		
授 業 の 目 的	学生各人が、それぞれの臨床・保健医療・医療経済的関心に基づき、実際に研究の proposal writing (仮説設定、データ収集の定式化並びに分析計画、必要リソースの見積もりと研究費の予算書作成まで) を実践的に習得することを目的とする。10 名まで受け入れ可		
授 業 の 方 法	講義とクラスディスカッションにくわえ、オフィスアワーを設けて、個別ディスカッションを併用する		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	1)& 2) 実証研究と理論、文献検索と仮説構築 (11 月 29 日) 3)& 4) 科研費申請書の「目的」「計画方法」の書き方 (12 月 6 日) 5)& 6) 研究費の構成・見積もり・計画 (12 月 13 日) 7)& 8) 仮説の発表と討論 (12 月 20 日) 9)&10) 個人情報保護と倫理申請書の作成 (1 月 10 日) 11)&12) 投稿雑誌の選び方・査読者とのやりとり (1 月 17 日) (康永) 13)&14) プロジェクトの進行管理 (1 月 24 日) 15)&16) プロトコール発表・評価とまとめ (1 月 31 日)		
教科書・参考書等	1) 医学的研究のデザインー研究の質を高める疫学的アプローチ スティーブン・B. ハリー (著), Stephen B. Hulley (原著), 木原 雅子 (翻訳), 木原 正博 (翻訳) メディカルサイエンスインターナショナル 2) 臨床試験データマネジメントーデータ管理の役割と重要性 大橋 靖雄 (著)、辻井 敦 (著) 医学書院		
成績評価の方法	最終的に提出される研究計画書 (文部科学研究補助 基盤 (C) の様式に準拠) で 70%、残り 30%をディスカッションでの発言により評価する。		
他の授業との関連	夏学期の「保健医療経済学」、「臨床疫学講義」などに関連する。		

科 目 名	保健医療経済学 [科目番号：41218118]		
学 期	夏学期前半	単 位 数	2 単位
曜日・授業時間帯	水曜・1－2 時限 (7 週)		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	橋本英樹 泉田信行		
授 業 の 目 的	前半は医療経済学の中級レベルについて教科書・関連論文に依拠しながら経済的モデルや概念化について理解を深めてもらう。後半は実証的な医療経済学分析を行うことを意識したデータの収集や加工・モデリングについて学ぶ		
授 業 の 方 法	講義、レポート、講義中のディスカッションなど		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	1) イントロ；医療経済学の視座（橋本）（4 月 11 日 1 限） 2) ミクロ経済学の考え方 1（橋本）（4 月 11 日 2 限） 3) ミクロ経済学の考え方 2（橋本）（4 月 18 日 1 限） 4) 消費者行動；健康行動・受療行動のモデル（泉田）（4 月 18 日 2 限） 5) 保険の理論と医療保険制度（橋本）（4 月 25 日 1 限） 6) 医療サービスの生産（橋本）（4 月 25 日 2 限） 7) 医療の企業行動（橋本）（5 月 9 日 1 限） 8) 医療従事者の労働市場（泉田）（5 月 9 日 2 限） 9) 競争・規制・衡平性（橋本）（5 月 16 日 1 限） 10) 高齢化と医療・介護費問題（橋本）（5 月 16 日 2 限） 11) 技術普及（橋本）（5 月 23 日 1 限） 12) 情報非対称によるエージェント問題（泉田）（5 月 23 日 2 限） 13) 2 次データの種類と利用申請（橋本）（5 月 30 日 1 限） 14) 医療制度比較と医療費（橋本）（5 月 30 日 2 限）		
教科書・参考書等	1) 泉田ら；医療経済学講義 東京大学出版会 2) リーディングパッケージ（必要に応じて講義時に配布）		
成績評価の方法	出席 30%、提出課題 40%、残り 30%をディスカッションや講義中の発言により評価。		
他の授業との関連	夏学期の「保健医療政策学」などに関連する。		

科 目 名	医療コミュニケーション学 [科目番号：41218120]		
学 期	夏学期（前半）	単 位 数	2単位
曜日・授業時間帯	火曜3、4時限		
場 所	医学部・教育研究棟13階講義室		
担 当 教 員	木内貴弘、石川ひろの		
授 業 の 目 的	本講義の目的は、医療コミュニケーションの理論と実践方法を体系的に学習することにある。 医療コミュニケーションとは、医療従事者相互、医療従事者と患者間、患者相互等における医学・医療分野に関係した知識や情報のやりとりを意味する。医療コミュニケーションは、医学・医療と社会のインターフェイスとして、パブリックヘルス分野において、非常に重要な意味を持っている。従来、ヒト対ヒトのいわゆるヒューマンコミュニケーションを主体に考えられてきたが、現在では、これに加えて、インターネット、マスメディア、コンピュータ・ゲーム機等を介したコミュニケーションの意義・役割が増大している。 本講義では、個人あるいは社会としての最適な健康上のアウトカムを得るために、医学・医療に関する知識・情報を、正確かつ効果的に伝達し、受け手に理解してもらうために必要な、(1)コミュニケーションの理論体系、(2)コミュニケーションの実務的方法論、(3)コミュニケーションの評価・分析方法等を取り扱うとともに、医療コミュニケーションの具体的な実践例の紹介と分析も行う（具体的な内容は下記の「授業計画及び内容」を参照のこと）。本講義の受講によって、医療コミュニケーションを実践し、改善していくために必要な基礎的な知識を得ることができる。		
授 業 の 方 法	- 各回原則1テーマの講義を行う（2回で1テーマの講義もある）。 - テーマに基づいた追加資料の配布や実例の紹介を行うことがある。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	日時	内容	担当
	4月10日(火) 13:00-14:30	I. 医療コミュニケーション学総論 医療コミュニケーション学とは	木内貴弘
	4月10日(火) 14:50-16:20	II. 対人コミュニケーション カウンセリング入門	久田満 (上智大学)
	4月17日(火) 13:00-14:30 14:50-16:20	II. 対人コミュニケーション 患者-医療者間コミュニケーション (1) 医療者のための実践的コミュニケーションスキル	石川雄一 (日本ヘルスサイエンスセンター)
	4月24日(火) 13:00-14:30	I. 医療コミュニケーション学総論 ソーシャルマーケティング	木内貴弘
	4月24日(火) 14:50-16:20	II. 対人コミュニケーション 患者-医療者コミュニケーション (2) 医療機関の立場から	北村聖 (東京大学・医学教育国際協力研究センター)
	5月1日(火) 13:00-14:30 14:50-16:20	II. 対人コミュニケーション 患者-医療者間コミュニケーション (3) 患者の立場から	山口育子 (COML)
	5月8日(火) 13:00-14:30	III. メディアコミュニケーション エンターテインメント・エデュケーション	石川ひろの
	5月8日(火) 14:50-16:20	III. メディアコミュニケーション マスメディアによるコミュニケーション (1) 新聞	小畑洋一 (読売新聞)
	5月15日(火) 13:00-14:30	III. メディアコミュニケーション インターネット	木内貴弘

	5月15日(火) 14:50-16:20	Ⅲ. メディアコミュニケーション マスメディアによるコミュニケーション (2) テレビ	真崎理香 (NHK)
	5月22日(火) 13:00-14:30	Ⅲ. メディアコミュニケーション 健康キャンペーン	草川衛 (AC ジャパン)
	5月22日(火) 14:50-16:20	I. 医療コミュニケーション学総論 医療コミュニケーションの評価と実証研究	石川ひろの
	5月29日(火) 13:00-14:30	試験	
教科書・参考書等	• Athena du Pre. Communicating About Health: Current Issues and Perspectives. Oxford University Press. 2009 • Teresa L. Thompson, Alicia Dorsey, Katherine Miller, Roxanne Parrott (Editor) Handbook of Health Communication, Lawrence Erlbaum, 2003 • ピーター・G. ノートハウス、ローレル・L. ノートハウス (著)、萩原明人 (訳). ヘルス・コミュニケーション—これからの医療者の必須技術. 九州大学出版会. 2010 • 藤崎和彦、橋本英樹 (著)、医療コミュニケーション研究会 (編). 医療コミュニケーション—実証研究への多面的アプローチ. 篠原出版新社. 2010		
成績評価の方法	講義への出席 (30%)、試験 (70%) による。		
他の授業との関連	医療コミュニケーション学は、公衆衛生学・医学・医療のあらゆる分野と関係しているが、健康社会学、健康教育学、老年社会科学、健康増進科学、医療安全管理学との関係が深い。		

科 目 名	医療コミュニケーション学実習 [科目番号：41218121]		
学 期	夏学期（後半）	単 位 数	1 単位
曜日・授業時間帯	水曜 3－5 限（MBTI 実習のみ 6 限まで）		
場 所	医学部・教育研究棟 13 階講義室		
担 当 教 員	木内貴弘 石川ひろの		
授 業 の 目 的	医療コミュニケーションの実践に必要な実習を行うことによって、「医療コミュニケーション学」の講義で学んだ様々な理論や実践法に対する理解を深めるとともに、具体的な医療コミュニケーションの場（医療機関、官公庁、教育機関、研究機関、患者支援組織、マスコミ等）でこれらを生かすことができるようにすることを目的とする。		
授 業 の 方 法	- 各回、課題にもとづいて実習・発表・討論を行う。 - 実習毎にプレゼンテーション、レポート提出、相互評価等を行う。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	月 日	内 容	担 当
	6/6 13:00-18:10	I. 対人コミュニケーション実習 接遇実習	JAL アカデミー
	6/13 13:00-18:10	I. 対人コミュニケーション実習 コーチング実習	田口智博 （三重大大学）
	6/20 13:00-20:00	I. 対人コミュニケーション実習 MBTIに基づくコミュニケーション実習（1）	園田由紀 （日本 MBTI 協会）
	6/27 13:00-20:00	I. 対人コミュニケーション実習 MBTIに基づくコミュニケーション実習（2）	園田由紀 （日本 MBTI 協会）
	7/4 13:00-18:10	II. メディアコミュニケーション実習 インターネットコミュニケーション実習（1） 注意：ノート PC 必要	木内貴弘 石川ひろの
	7/11 13:00-18:10	II. メディアコミュニケーション実習 マス・コミュニケーション実習 - 新聞記事の執 6 筆と評価（記者会見実習） - 既存の新聞記事の評価・分析 注意：ノート PC 必要	木内貴弘 石川ひろの
	7/18 13:00-18:10	II. メディアコミュニケーション実習 インターネットコミュニケーション実習（2） 注意：ノート PC 必要	木内貴弘 石川ひろの
教科書・参考書等	- 本間正人、松瀬理保. コーチング入門（日経文庫）、2006 - 園田由紀（訳）. MBTI への招待—C.G.ユングの「タイプ論」の応用と展開、金子書房、2002 - 梅田望夫. ウェブ進化論 本当の大変化はこれから始まる（ちくま新書）、2006		
成績評価の方法	実習への参加、実習内でのプレゼンテーション、作成した資料によって評価する。やむを得ず欠席する場合には、事前に事情を届け出れば、別途レポートの提出に代える場合がある。		
他の授業との関連	「医療コミュニケーション学」講義の受講が望ましいが、「医療コミュニケーション学」講義の知識は前提としない。		

科 目 名	社会と健康 [科目番号： 41218123]		
学 期	冬学期	単 位 数	2単位
曜日・授業時間帯	木曜・2時限 (15週)		
場 所	医学部・教育研究棟 13 階 SPH 講義室		
担 当 教 員	橋本英樹・近藤尚己・豊川智之・児玉聡・川上憲人 堤明純（北里大学教授） 藤原武男（成育医療研究センター研究所 成育社会医学研究部 部長） 本庄かおり（大阪大学グローバルコラボレーションセンター准教授）		
授 業 の 目 的	世界保健機関の2008年総会決議を皮切りに、保健・医療政策に限らず、あらゆる社会政策が健康の平等を達成するために果たすべき役割が議論されている。本講義では、広範な社会・経済的健康決定要因について、テーマ別に理論的背景・実証研究・現時点の課題・政策的応用の実例などを鳥瞰し、社会的健康決定要因の研究・応用に必要な情報と考える枠組みを提供する。		
授 業 の 方 法	事前配布資料、講義とクラスディスカッションから成る		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	1) イントロ；病因の理論と歴史（橋本）（10月4日） 2) 絶対的貧困と相対的貧困（近藤）（10月11日） 3) 職階・ストレスと健康（堤）（10月18日） 4) ソーシャルサポートとネットワーク（橋本）（10月25日） 5) 差別、社会的排除と健康（川上）（11月1日） 6) 社会的関係資本（近藤）（11月8日） 7) ジェンダーと健康（本庄）（11月15日） 8) 小児期の環境とライフコースアプローチ（藤原）（11月22日） 9) 医療アクセスと健康（豊川）（11月29日） 10) 社会的健康決定要因と健康影響評価（近藤）（12月6日） 11) バイオポリティクスと embodiment（橋本）（12月13日） 12) 社会疫学の因果推論（近藤）（12月20日） 13) Globalization と健康（TBA）（1月10日） 14) 健康の平等と倫理（児玉）（1月17日） 15) 試験（1月24日）		
教科書・参考書等	1) 医療と社会 特集号（2011）小塩隆 編 2) 適宜、配布資料		
成績評価の方法	出席20%、課題提出30%、最終試験50%		
他の授業との関連	夏学期の「保健医療経済学」、「精神保健学」「臨床疫学講義」、秋学期の「健康医療政策学」、「医療倫理学」などに関連する。		

科 目 名	医療技術評価学演習 [科目番号：41218124]		
学 期	夏季休業期間	単 位 数	1単位
曜日・授業時間帯	集中（3日間） 9/10（月）～9/12（水） 5コマ×3日		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻（SPH）講義室		
担 当 教 員	橋本英樹 協力 福田敬（国立保健医療科学院） 五十嵐中 （薬学系研究科）		
授 業 の 目 的	医療経済評価及びアウトカム評価の実践能力を身に付けるために、具体的な医療技術や薬剤を事例として取り上げ、グループ毎に評価研究のステップに従って、課題の設定、決定樹やマルコフモデルの作成、臨床結果及びコスト情報の収集、費用対効果の算出、感度分析などの一連の経済評価手法を学ぶ。		
授 業 の 方 法	各回、演習用マテリアルを配布し、各自解答を試みた後、グループ毎で検討する。グループ毎の結果を持ち寄って発表した後、全体で討論する。一部、電卓やパソコンを用いた演習を行う。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	DAY1 1) 医療経済評価の概要 1 DAY1 2) 医療経済評価の概要 2 DAY1 3) コストの算出方法と課題 DAY1 4) 効用値の測定方法 1 DAY1 5) 効用値の測定方法 2 DAY2 6) メタアナリシス 1 DAY2 7) メタアナリシス 2 DAY2 8) モデルを用いた経済評価 1 DAY2 9) モデルを用いた経済評価 2 DAY2 10) モデルを用いた経済評価 3 DAY3 11) 経済評価論文の批判的吟味 1 DAY3 12) 経済評価論文の批判的吟味 2 DAY3 13) 経済評価ガイドラインと経済評価データベース DAY3 14) 医療経済評価の活用 1 DAY3 15) 医療経済評価の活用 2		
教科書・参考書等	教科書は指定しない。各回に演習用のマテリアルを配布する。 参考書は以下の通り。 ・「やさしく学ぶ薬剤経済学」、じほう 2003 ・「講座医療経済・政策学第4巻 医療技術・医薬品」、勁草書房 2005 ・「保健医療の経済的評価」、じほう 2003 ・「医療の経済評価」、医学書院 1999		
成績評価の方法	出席及び演習への参加状況により評価する。		
他の授業との関連	「疫学研究と実践」、「医学研究のデザイン」、「臨床疫学」、「健康医療政策学」の各講義と関連する。		

科 目 名	医療経営学演習 [科目番号：41218125]		
学 期	冬学期前半	単 位 数	1単位
曜日・授業時間帯	木曜・3・4時限（8週）：		
場 所	医学部・教育研究棟 13 階 SPH 講義室		
担 当 教 員	橋本英樹・大江和彦・小池創一 松原由美（明治安田生活福祉研究所・主任研究員） 奥真也（会津大学・教授） 礪野敏和（千葉大学・亥鼻地区事務部看護学部事務長） 【協力】 西田在賢（静岡県立大学・教授） 森勇治（静岡県立大学・講師）		
授 業 の 目 的	本演習では、臨床経験3年以上の医療従事者を中心に、病院経営の基本的姿勢や考え方について初歩的理解を得ることを到達目標とする。本コースは個別経営技術の習得そのものや、経営上のトピックを取り扱うことは中心としない。経営者として、実務者とのコミュニケーションに必要と思われるコア概念（財務・管理会計、組織論・人材管理、戦略論、リスクマネジメント）について基本知識を系統講義で確認した後、ケースシナリオを用いたグループディスカッションを通じ、それらを実践知化する。		
授 業 の 方 法	座学ではなくケースを通じたアクティブな学習を参加者に対して求める。特にシナリオケースについては事前の読み込みを、また指定された場合には課題準備を事前に行ったうえで受講することを必須要件とする。また、受身ではなく、積極的な討論への参加や質問を歓迎する。講座中に適宜行われる小グループによる討論・準備も、多職種・利害関係のある集団とのコミュニケーションや共同意思決定が求められる経営者にとって必須の訓練であると考え、積極的な参加を求める。10名以上で開講、定員15名まで		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	1) イントロ・経営概論（西田・橋本）（10月4日3限） 2) 財務会計の基礎（森・橋本）（10月4日4限） 3) 経営診断と意思決定会計（松原）（10月11日3限） 4) ケース1 熊本機能病院（松原・橋本）（10月11日4限） 5) ケース1 熊本機能病院（松原・橋本）（10月18日3限） 6) 組織・人材管理論（奥）（10月18日4限） 7) ケース2 山本メディカルセンター（奥・橋本）（10月25日3限） 8) ケース2 山本メディカルセンター（奥・橋本）（10月25日4限） 9) 医療情報管理と情報技術の活用（大江）（11月1日3限） 10) 戦略マネジメント論（橋本）（11月1日4限） 11) ケース3 野村病院（西田・橋本）（11月8日3限） 12) ケース3 野村病院（西田・橋本）（11月8日4限） 13) 原価管理と医療情報システムによる病院運営（小池）（11月15日3限） 14) ケース4 東大病院（橋本）（11月15日4限） 15) リスクコミュニケーション演習（礪野・橋本）（11月22日3限） 16) リスクコミュニケーション演習（礪野・橋本）（11月22日4限）		
教科書・参考書等	1) コースパッケージを事前に配布する		
成績評価の方法	出席20%、課題提出により50%、講義・ディスカッション内での発言を30%で評価。		
他の授業との関連	医療情報学・保健医療経済学などに関連		

科 目 名	精神保健学Ⅰ [科目番号：41218211]		
学 期	夏学期	単 位 数	2単位
曜日・授業時間帯	火曜日・5限		
場 所	医学部・教育研究棟13階公共健康医学専攻講義室		
担 当 教 員	川上憲人、島津明人、非常勤講師		
授 業 の 目 的	精神保健の実態およびニーズを把握し、効果的な第一次、第二次、第三次予防対策を立案することができるようになるために、精神保健疫学の基礎および精神保健対策の科学的根拠を知り、地域における対策の進め方について事例（ケーススタディ）を通じて学ぶことで、実践的な能力も身につけることを目的とする。		
授 業 の 方 法	各回1テーマの講義あるいは事例研究（ケーススタディ） 担当教員（または非常勤講師）による講義、あるいは学生がテーマに関して発表しこれに担当教員が補足を行い、全員で討論（ディベート）する。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	4／10 1）オリエンテーション、精神保健総論 4／17 2）精神疾患の診断と分類 4／24 3）精神疾患の頻度と危険因子 5／8 4）精神健康の測定と評価 5／15 5）精神保健とサービス利用 5／22 6）課題発表1：精神保健の対策と効果（その1） 5／29 7）課題発表1：精神保健の対策と効果（その2） 6／5 8）トピックス①：うつ・自殺対策（国および秋田県の対策） 6／12 9）トピックス②：うつ・自殺対策（長崎県の対策） 6／19 10）トピックス③：精神保健行政の現状と課題 6／26 11）トピックス④：精神障害者アウトリーチ推進事業の展開と課題 7／3 12）トピックス⑤：災害時の精神保健 7／10 13）トピックス⑥：認知行動療法 7／24 14、15）課題発表2（5、6限）※ ※最終回のみ授業時間が16:40-20:00となるので注意すること。		
教科書・参考書等	教科書は指定しない。毎回、講義資料を配付する。		
成績評価の方法	出席（約30%）、課題発表（約30%）、レポート（約30%）により評価する。		
他の授業との関連	職場における精神保健対策について深く学ぶ「精神保健学Ⅱ」と関連する。		

科 目 名	精神保健学Ⅱ [科目番号：41218212]		
学 期	冬学期	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	火曜日・5限		
場 所	医学部・教育研究棟13階 公共健康医学専攻講義室		
担 当 教 員	島津明人、川上憲人、非常勤講師		
授業の目的	職場のメンタルヘルスの専門職として必要とされる知識・技術を、講義および事例研究とその後の討論によって習得することを目的とする。具体的には、制度・法規、利用者の状態および特性を踏まえた対応、関連職種間の連携、近年の社会経済情勢を踏まえた対策について学び、具体的な対策を現場で進めることのできる能力を養成する。		
授業の方法	各回1テーマの講義あるいは事例研究（ケーススタディ） 担当教員（または非常勤講師）による講義と全員での討論。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	10／ 2 1) コース概要，産業精神保健総論 10／ 9 2) 組織・個人の活性化とポジティブメンタルヘルス 10／16 3) 職場環境改善の効果的な進め方 10／23 4) 個人向けストレス対策の考え方と進め方 10／30 5) 日本におけるEAPの現状と今後の課題 11／ 6 6) 日本人の長時間労働について 11／13 7) 現代型うつ病について 11／20 8) 仕事と家庭の両立の現状と政策的課題 11／27 9) メンタル不調者対応の基本的な枠組み・専門職が留意すべきこと 12／ 4 10) グローバリゼーションと職業性ストレス問題ーストレスを克服する 人と組織のあり方を考える 12／11 11) 労働者の復職支援プログラム 1／ 8 12) 中小規模事業所のメンタルヘルス対策と公的支援体制 1／15 13) 失業者のメンタルヘルス対策 1／22 14) これからの職場のメンタルヘルス		
教科書・参考書等	川上憲人・堤明純（監修）「職場におけるメンタルヘルスのスペシャリストBOOK」 培風館。その他、毎回、講義資料を配付する。		
成績評価の方法	出席（30%）、レポート（70%）により総合的に評価する。		
他の授業との関連	精神保健疫学と対策の基礎について学ぶ「精神保健学Ⅰ」を受講していることが望ましい。		

科 目 名	健康教育学 [科目番号：41218213]		
学 期	冬学期	単 位 数	2 単位
曜日・授業時間帯	水曜・1～2 時限（8 週）		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻（SPH）講義室		
担 当 教 員	小林廉毅、非常勤講師（河合薫、岩永俊博、武藤孝司、岡田加奈子、中村安秀、三木とみ子、小川敬子）		
授 業 の 目 的	知識・意識・行動変容を図る健康教育の理論と、健康教育プログラムの立案・実践・評価を目的としたプロジェクトマネジメントの方法論を学ぶ。 特に、健康教育の実践の場となる、地域（国際保健を含む）・職域・学校などの種々のフィールドについて、教育対象やフィールドを取り巻く諸条件の特色を勘案し、健康教育プログラムを実施するための具体的留意点を学習することにより、効果的かつ継続的に実施可能な健康教育プログラムのマネジメント能力を養うことを重視する。		
授 業 の 方 法	講義及び討論。毎回のテーマによって必要な資料を講義の際に配布する。ケースメソッドをおこなう回では、事例についての資料を準備する。なお、一部の日程については学部3年生と共通でおこなわれるので、年長者の余裕と寛容の精神をもって接していただくよう希望する。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	日程 各回のテーマ 10／17 1) 概論 10／24 2) 職域における健康教育 10／31 3) 地域づくりと健康教育 11／7 4) 健康教育の評価 11／14 5) ケースメソッド 11／21 6) 国際保健と健康教育 11／28 7) 学校における健康教育 12／5 8) 地域における健康教育		
教科書・参考書等	健康教育 ― ヘルスプロモーションの展開（保健同人社） 健康教育・保健行動（有信堂） 実践ヘルスプロモーション（医学書院） （いずれも参考書）		
成績評価の方法	授業への参加（出席だけでなく、積極的な発言を評価する）および最終レポート提出		
他の授業との関連	行動変容の理論的側面については「健康社会学」と関連する。また、種々のフィールド、種々の対象への実践に結びつくため、「保健医療経済学」、「医療コミュニケーション学」、「医療倫理学」、「健康医療政策学」などの科目と関連を有する。		

科 目 名	健康増進科学 [科目番号：41218217]		
学 期	夏学期	単 位 数	2 単位
曜日・授業時間帯	火曜・3～4 時限（8 週）		
場 所	医学部・教育研究棟 13 階 SPH 講義室		
担 当 教 員	李 廷秀		
授 業 の 目 的	健康増進科学の基本的な考え方とその実践について、歴史的背景と最新の動向から体系的に理解することを目的とする。 健康増進活動については、栄養・食生活、運動・身体活動等の行動変容と、これらの生活行動と関連する社会的・生活環境の観点から習得する。 具体的には、健康関連問題に関する種々の情報を収集・分析・アセスメントし、その結果から適切な健康問題解決プログラムとしての集団アプローチと個別アプローチを立案・実施・評価する能力を養う。		
授 業 の 方 法	・ 各回 1 テーマの講義と少人数討論（ディベート） ・ 講義の際に資料を配付する		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	予定日 各回のテーマ 6 月 5 日 概論－そのⅠ（歴史と理論的背景） 概論－そのⅡ（健康増進とは） 6 月 12 日 健康問題のアセスメントと課題設定（循環器疾患） 健康問題のアセスメントと課題設定（循環器疾患危険因子） 6 月 19 日 健康問題のアセスメントと課題設定（悪性新生物） 健康問題のアセスメントと課題設定（悪性新生物の危険因子） 6 月 26 日 生活行動のアセスメントと対策（身体活動・運動） 生活環境のアセスメントと対策（生活環境） 7 月 3 日 生活行動のアセスメントと対策（栄養・食生活） 生活環境のアセスメントと対策（食環境） 7 月 10 日 介入プログラムの立案（行動変容理論） 介入プログラムの実施・評価（行動変容理論の適用） 7 月 17 日 介入プログラムの実施の実際（肥満・代謝性疾患） 介入プログラムの評価（肥満・代謝性疾患） 7 月 24 日 長期追跡研究(TMIG-LISA)と介護予防－介護予防施策の根拠－ わが国の介護予防施策の現状と課題－新しい研究成果にもとづく提言－		
教科書・参考書等	・ 国民衛生の動向（厚生統計協会、厚生指標臨時増刊） ・ 予防医学のストラテジー（医学書院） ・ ヘルスプロモーション（医学書院） ・ 実践 ヘルスプロモーション（医学書院） ・ 健康行動と健康教育（医学書院） ・ 国保ヘルスアップモデル事業個別健康支援プログラム実施マニュアル（厚生労働省） ・ 標準的な健診・保健指導に関するプログラム（厚生労働省）		
成績評価の方法	授業毎のレポートに出席状況を加味する		
他の授業との関連			

科 目 名	医療倫理学Ⅰ [科目番号：41218218]		
学 期	冬学期	単 位 数	2 単位
曜日・授業時間帯	金曜・5～6 時限 (8 週)		
場 所	医学部教育研究棟 13F 第 6 セミナー室		
担 当 教 員	赤林 朗、児玉 聡		
授 業 の 目 的	公衆衛生領域の政策決定や臨床現場における倫理的判断の基礎となる倫理・哲学的な考え方を教える。医療倫理学総論、インフォームド・コンセント、研究倫理などを取り上げ、全体講義と少人数討論（ディベート）を行う。学生は、講義を聴講するとともに、レポートを提出することが求められる。		
授 業 の 方 法	各回、最初に全体講義を行い、当該テーマに関する必要知識を教授する。さらに、当該知識を実践に活用するための訓練として、少人数のグループに分かれ、用意した課題に関してディスカッションを行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	10/5 1) 生命・医療倫理学とは／倫理学の基礎 1 10/12 2) 倫理学の基礎 2／医療倫理の原則と重要概念 10/19 3) 臨床症例の倫理的検討法 10/26 4) 研究倫理／守秘義務 11/2 5) ケアの倫理／生殖医療 11/9 6) IC の法理／終末期医療 11/16 7) 模擬倫理委員会 11/30 8) 臓器移植		
教科書・参考書等	・ 赤林朗(編著)『入門・医療倫理Ⅰ』勁草書房 ・ Jonsen, A.R. et al. 著 (赤林、蔵田、児玉監訳)『第 5 版臨床倫理学--臨床医学における倫理的決定のための実践的なアプローチ』新興医学出版 ・ 赤林朗編著『ケースブック 医療倫理』医学書院 ・ Hope, T. 著 (児玉聡・赤林朗訳)『一冊で分かる医療倫理』岩波書店		
成績評価の方法	出席(約 30%)、及び最終レポート(約 70%)により評価する。		
他の授業との関連	「医療倫理学Ⅱ」受講の基礎となる内容である。		

科 目 名	医療倫理学 II [科目番号：4 1 2 1 8 2 1 9]		
学 期	冬学期	単 位 数	2 単位
曜日・授業時間帯	金曜・5～6 時限 (7 週)		
場 所	医学部教育研究棟 13F 第 6 セミナー室		
担 当 教 員	赤林 朗、児玉 聡		
授 業 の 目 的	公衆衛生領域の政策決定や臨床現場における倫理的判断の基礎となる倫理・哲学的な考え方について、「医療倫理学特論 I」で取り上げた項目をさらに深く論じる。政治哲学、資源配分、健康格差の問題などを取り上げ、全体講義と少人数討論（ディベート）を行う。学生は、講義を聴講するとともに、レポートを提出することが求められる。		
授 業 の 方 法	各回、最初に全体講義を行い、当該テーマに関する必要知識を教授する。さらに、当該知識を実践に活用するための訓練として、少人数のグループに分かれ、用意した課題に関してディスカッションを行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	12/7 1) 公衆衛生の倫理学入門 12/14 2) 公衆衛生と政治哲学 12/21 3) 資源配分と新型インフルエンザ 1/4 4) 疫学研究の倫理 1/18 5) 健康格差と正義 2/1 6) ケーススタディ 1 2/8 7) ケーススタディ 2		
教科書・参考書等	・ 赤林朗(編著)『入門・医療倫理 I』勁草書房 ・ 赤林朗(編著)『入門・医療倫理 II』勁草書房 ・ ウィル・キムリッカ、『新版 現代政治理論』、日本経済評論社 ・ ノーマン・ダニエルズ他、『健康格差と正義』、勁草書房		
成績評価の方法	出席(約 30%)、及び最終レポート(約 70%)により評価する。		
他の授業との関連	受講者は「医療倫理学 I」を履修していることが望ましい。		

科 目 名	健康医療政策学 [科目番号：41218311]		
学 期	冬学期	単 位 数	2 単位
曜日・授業時間帯	月曜 5 時限		
場 所	医学部・教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻講義室		
担 当 教 員	小林廉毅、東 尚弘、 馬場園 明（九州大学医療経営・管理学）		
授 業 の 目 的	疾病予防対策、医療制度、診療報酬、医療の質など、種々の健康・医療に関わる問題の背景並びに実際の政策の立案、広報・報道、実施、評価、社会への影響について、様々なステークホルダー（利害関係者など）の立場、関連の法規・制度、費用負担のあり方などを体系的に理解するとともに、事例（ケース）を通じて政策立案・マネジメント能力を身に付ける。		
授 業 の 方 法	講義及び事例研究（ケーススタディ）、討論（ディベート）などによる。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	①10/1 エビデンス（科学的根拠）と健康医療政策（小林） ②10/15 健康政策としての健診・検診（小林） ③10/22 診療報酬による政策誘導（小林） ④10/29 レセプトオンライン化に至る政策決定過程（外部講師 岡本先生）（小林） ⑤11/5 医療事故報告制度（外部講師 後先生）（小林） ⑥11/12 米国医療制度の基礎知識（東） ⑦11/19 なぜ米国は国民皆保険でないのかー比較医療制度論（小林） ⑧11/26 なぜ我が国ではがん検診が成果を挙げていないのか（外部講師 斎藤先生）（東） ⑨12/3 医療の質の定義と評価（東） ⑩12/10 医療の質の評価の利用（東） ⑪12/17 政策提言の策定における課題（東） ⑫1/7 日本における医療政策決定過程（外部講師 前村先生）（東） ⑬1/21 （4 時限 14:50-16:20）特別講義（馬場園） ⑭" （5 時限 16:40-18:10）"（"） ⑮1/28 試験（東）		
教科書・参考書等	「国民衛生の動向」（厚生統計協会）		
成績評価の方法	出席（約 30%）、小レポート（約 20%）、筆記試験（約 50%）に基づいて評価する。		
他の授業との関連	「疫学研究と実践」「保健医療経済学」と関連する。		

科 目 名	医療情報システム学 [科目番号：4 1 2 1 8 3 1 2]		
学 期	夏学期・後半	単 位 数	2 単位
曜日・授業時間帯	金曜・3～4時限 (詳細日程は初回に説明)		
場 所	医学部・教育研究棟 SPH 講義室		
担 当 教 員	教授：大江和彦 他		
授 業 の 目 的	現在の医療が抱える課題を IT による解決していくにはどうしたらよいかについて理解し、臨床的なエビデンスや医療変革のための知見を得るための基盤情報システムとしての電子カルテやレセプトのデータベースの意義と課題を理解する。また医療情報がどのように医療サービスシステムの中で管理・活用されるべきかについて議論する。こうしたことを通じて現在の医療システムの変革につなげる方策と制度との関連性を学ぶ。また医療データを扱う上で避けて通れないデータのコーディングと標準化の重要性について理解する。		
授 業 の 方 法	医療サービスやそれに関わる医療 IT 政策、地域医療におけるフィールド実証実験に関するテーマをひとつずつ順にとりあげ、それぞれにおいて医療情報システム、データベース、情報通信技術 (IT)、法令や制度がどのように関わり、課題と関連しているかについて講義をしたあとで、それについて議論し、最後に発表を行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	2012 年 4 月 13 日 (初回) に全体の授業計画を説明する。全体は 15 コマからなる。外部講師の都合や理解度の進捗などに寄って各回のテーマを入れ替えることがある。 4 月 13 日 国内外の医療情報化政策と関連する情報技術基盤、制度の概要 4 月 20 日 電子カルテシステムの基礎と課題 4 月 27 日 政府が進めるところでも MY 病院とシームレスな医療連携構想 5 月 11 日 レセプトの電子化とナショナルレセプトデータベース 5 月 18 日 地域医療情報連携ネットワークの現状 5 月 25 日 情報の安全管理と個人情報保護 6 月 8 日 日本版センチネルデータベースと大規模データベース 6 月 15 日 総合討論、試験		
教科書・参考書等	・ 医療情報 情報処理技術編 (篠原出版新社) ・ 医療情報 医療情報システム編 (篠原出版新社) ・ 内閣官房 IT 戦略本部 新たな情報通信技術戦略および工程表 http://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/		
成績評価の方法	出席率 20%、討論 30%、レポート (含試験) 点数 50%の比重で総合的に判定する。		
他の授業との関連	保健医療経済学：医療経済学的観点で医療情報システムを理解する上で関連性を有する。 医療コミュニケーション学：医療情報システムのパブリックリレーション面での役割を考える上で関連性を有する。 臨床情報工学：臨床データの処理技法、情報工学の知識を身に付けるうえで、関連性が強く、同時に受講することが望ましい。		

科 目 名	医療情報システム学実習 [科目番号：41218313]		
学 期	冬学期・前半	単 位 数	1 単位
曜日・授業時間帯	火曜・1～2 時限（詳細日程は初回に説明）		
場 所	医学部・教育研究棟 SPH 講義室		
担 当 教 員	教授：大江和彦 他		
授 業 の 目 的	医療データベースを構築し、データの標準化の実際、データベースの操作手法・管理方法・データ管理におけるセキュリティー技術を身につける。また大規模な医療データベースシステムの管理を東大病院の情報システムを題材として学ぶ。		
授 業 の 方 法	電子カルテとレセプトのサンプルデータを用いて、臨床データベースの設計、データの作成、標準化コードへの変換、データの暗号化などを行い実際にデータベースを作成し、そのデータベースを使って検索・データ抽出しする一連の過程を実習する。Windows パソコンのごく基本的な操作（ファイルのコピー、削除、Word と Excel の基本的な操作）は出来ることが条件。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	以下の7項目について全体の進捗をみながら各項目に2～3コマかけて実習する。 1) データ作成・変換・インターネットの基本技術実習 2) データベース設計とデータベース操作：医療サンプルデータをもとに、リレーショナルデータベースの一連の基本操作を学ぶ。他のソフトウェアとデータベースとのデータ相互変換の基本的な技術を習得する。 3) データの標準化コードへの変換を学ぶ。 4) データの暗号化手法と暗号化通信について実習し、公開鍵暗号化方式を理解するための実習を行う。 5) データベースを作成し、与えられた臨床研究課題などに適合するデータの抽出、変換を行い、研究に必要なデータを作成する。 7) 東大病院の医療情報システムを見学、実体験し、大規模な情報システムにおけるデータ管理のシステム管理の実際を学び、総合討論を行う。 日程は以下の8回：(1)10月2日、(2)10月9日、(3)10月16日、(4)10月23日、(5)10月30日、(6)11月6日、(7)11月13日、(8)11月20日		
教科書・参考書等	医療情報システム実習手引書及び関連資料を実習時に配布する。 パソコンは当方で1人1台用意する。		
成績評価の方法	各テーマの実習態度、出席状況、質疑等を総合的に評価する。		
他の授業との関連	医療情報システム学講義を受講していることが望ましい。		

科 目 名	臨床情報工学 [科目番号:41218314]		
学 期	夏学期	単 位 数	2 単位
曜 日・授 業 時 間 帯	月曜5時限		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	小山博史及び非常勤講師予定(中山健夫先生、若尾文彦先生)		
授 業 の 目 的	公共保健分野における情報処理の基礎について理解すること。		
授 業 の 方 法	各回 1 テーマの講義を行う。テーマによって資料を事前に配布し、質疑応答を中心に講義を行う。講義期間中の疑問等は受講者専用 Blog サイトを用いて対応する予定。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	【対象】公共保健分野における情報処理について習得したい人。(特にプログラミング能力を有する必要はありません。) 【内容】教科書として Public Health Informatics and Information Systems を題材に公共保健分野における情報処理の基礎について質疑応答を中心とした講義を行う。 【概要】(毎週月曜 16:20-17:50) (7/30 のみ 20:00 まで) (非常勤講師の都合で一部日程の変更の可能性あり) [歴史] (4/16) 第1回:オリエンテーション(情報化の歴史) [保健データの集収と管理] (4/23) 第2回:予防接種登録における情報処理 (5/07) 第3回:疾患登録(がん登録)における情報処理 (5/14) 第4回:公共保健と遺伝子情報 (5/21) 第5回:公共保健情報処理における関連法と規制 [空間データの解析と利用] (5/28) 第6回:GIS(地理情報システム)概説 (6/04) 第7回:GIS を用いた環境ハザード分析 (6/11) 第8回:GIS を用いた医療資源へのアクセス分析 [公共保健データの蓄積と検索] (6/18) 第9回:リスクファクターデータベース (6/25) 第10回:中毒・環境汚染データベース (7/02) 第11回:公共保健における知識ベース [公共情報の提供・普及] (7/09) 第12回:新興感染症に関する国際情報ネットワーク (7/23) 第13回:国立がん研究センターがん情報サービス(仮題). 若尾文彦先生(国立がん研究センターがん対策情報センター副センター長)(予定) (7/30) 第14回:エビデンスからガイドラインへ(仮題). 中山健夫先生(京都大学教授)(予定) (7/30) 第15回:総合討論・試験(小山博史)		
教科書・参考書等	D.A. Ross, A.R. et al., Public Health Informatics and Information Systems. Publisher: Springer; 1 edition (October 16, 2002)		
成績評価の方法	出席とレポート、期末試験等により評価する。		
他の授業との関連	医療情報システム学や医療コミュニケーション学と関連性が深く、共に受講することが望ましい。		

科目名	臨床情報工学実習 [科目番号:41218315]		
学期	冬学期	単位数	1単位
曜日・授業時間帯	金曜 3-4 時限		
場所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室予定		
担当教員	小山博史及び非常勤講師 (山口直人先生、新保卓郎先生予定)		
授業の目的	R を用いた地理空間データ処理法の習得と公共医療保健領域における代表的な情報システムの理解。		
授業の方法	コンピュータ上の R を用いた地理空間データ処理法の習得と国内における代表的な公共保健医療分野における情報システム化の意義と課題についての研究発表形式の実習予定。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	【対象】R を用いた地理空間データ処理法の習得と公共保健医療分野における代表的な情報通信システムの評価法について研究を行いたい人。 【内容】R を用いた地理空間データ処理法の習得を行い、次に代表的な事例としてがん登録事業、EBM 診療ガイドライン、がん情報サービス、臨床研究支援事業における情報システムの評価に関する事例研究を行う。 【R を用いた地理空間分析入門】 1. 地理空間データ処理の基礎 2. 地理空間分布パターン分析 3. ネットワーク分析 4. 地理空間相関分析 【事例研究予定】 1. 院内がん登録支援情報システム (東京大学医学部附属病院) (予定) 2. 臨床研究支援情報システム (国立国際医療センター) (予定) 3. EBM 診療ガイドラインの情報システム (医療機能評価機構) (予定) 4. がん相談支援システム (国立がん研究センター) (予定)		
教科書・参考書等	実習の手引きを中心に行う。 R のダウンロードサイト (http://www.r-project.org/)		
成績評価の方法	出席とレポート、期末試験等により評価する。		
他の授業との関連	医療情報システム学、医療コミュニケーション学と関係が深く、共に受講することが望ましい。		

科 目 名	法医学・医事法学 [科目番号：41218316]		
学 期	夏学期	単 位 数	2 単位
曜日・授業時間帯	月曜・3 時限		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	吉田謙一		
授 業 の 目 的	1) 異状死とは、臨床医が確実に診断した病死以外の全ての死である。先進国では、公的死因究明する対象と考えられている。しかし、日本では、警察の関与、情報利用の法的制限等の問題から、医療者に死因究明の意義が伝わらず、また公衆衛生上の利用ができない。このような死因究明の問題点と意義を理解する。 2) 死因は、法的責任の判断、個人の権利に係ることが多い。医療従事者として患者・家族へ対応すべき事項や社会から求められる事項を、類型別に関連法規・判例等と関連づけて理解する。 3) 異状死に含まれる事故死・診療関連死・突然死・交通事故関連死・過労死・虐待死等における死因決定の考え方、及び傷害・事故・ストレス・環境要因等の外因と素因・既往症等の内因の死への寄与度の判断の考え方を理解する。 4) 異状死や診療関連死の調査制度に関する国内外の状況について理解する。そして、制度の矛盾を分析し、どのように制度を革新するかについて考える。 5) 授業は、臨床経験を持ち、問題意識の強い学生の質問によって、例年、自然と対話形式を織り交ぜた活発なものとなっている。		
授 業 の 方 法	事例を中心とした講義形式		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	4/16～ 1) 異状死・診療関連死と死因究明制度 2) 死因論・死亡診断書上の死因の考え方 3) 突然死とストレス 4) 労災と過労死 5) 損傷総論 6) 頭部外傷と脳出血 7) 胸腹部損傷、骨盤・脊髄損傷 8) ショックと関連する病態・塞栓症など 9) 交通事故・賠償科学 10) 異常環境 11) 窒息 12) 胎児・新生児・出産をめぐる諸問題、虐待 13) 中毒 14) 医事法・医療情報 15) 医療紛争		
教科書・参考書等	(教科書) ・ 吉田謙一著「事例に学ぶ法医学・医事法」有斐閣 (2010 年)		
成績評価の方法	筆記試験。レポート、出席を加味する。		
他の授業との関連	東大の医学部、法学部、法科大学院の講義内容と近いので、再履修は必要ない。ただし、後期の演習は、講義とは別に履修するメリットはある。		

科 目 名	法医学・医事法学演習 [科目番号：41218317]		
学 期	冬学期	単 位 数	2単位
曜日・授業時間帯	月曜・3～4時限		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	吉田謙一、古笛恵子 (コブエ法律事務所, 早稲田大学非常勤講師)、廣瀬佳恵 (厚生労働省医系技官)、阿部隆徳 (大阪大学特任教授、弁護士、NY 州弁護士)		
授 業 の 目 的	1) 法医学・医事法学の講義の内容をもとに、事例に即した演習を行い、死因の決定や責任判断の過程を学ぶ。 2) 判例演習や法廷見学を通じて、医学と法学の考え方の違いを学ぶ。 3) 診療関連死に関する法と制度の問題点を理解し、外国の制度と比較し、新しい法・制度のあり方を考える。		
授 業 の 方 法	解剖見学等を通じた法医実務の理解、及び判例演習や法廷見学を通じた医事法的実務の習得。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	10/3～ 1) 医療紛争・医療過誤 (吉田) 2) 医療判例の読み方 (奥津) 3) 診療情報と遺族対応に関する問題 (辻村) 4) 医療事故調査に関する制度 (中島) 5) 事故調査制度～行政の立場から、医系技官の実態 (廣瀬) 6) 行政処分、ADR (吉田) 7) 医療事故・医療紛争～民事賠償の観点から (古笛) 8) 医療事故・医療紛争～日米比較の観点から (阿部) 9) 裁判所見学 (適宜日程調整)		
	(教科書) ・ 吉田謙一著「事例に学ぶ法医学・医事法」有斐閣 (2010 年) (参考書) ・ 畔柳達雄、高瀬浩造、前田順司著「わかりやすい医療裁判処方箋」判例タイムズ社 (2004 年)		
成績評価の方法	出席、レポート、受講態度で評価する。		
他の授業との関連	夏学期の法医学・医事法学の履修が望ましいが、必須ではない (東大における既履修者は、前期履修不要)。		

科 目 名	医療安全管理学 [科目番号：4 1 2 1 8 3 1 8]		
学 期	夏学期	単 位 数	1 (90 分×8 回)
曜日・授業時間帯	水曜・3～4 時限 (4 週)		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	児玉安司		
授 業 の 目 的	医療安全管理とは、①有害事象の未然防止、②発生した有害事象への適切な対応、③患者からの苦情相談への対応のための取り組みである。本講義では、これらに関連する重要な問題について基礎知識を習得することを目的として、講義を行う。		
授 業 の 方 法	・各回 1 テーマを選んで講義を行う。 ・テーマ毎に資料が配布される。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<u>第 1 回 (4 月 11 日)</u> ①医療機能評価機構の取り組み ②東大病院における医療安全管理活動 <u>第 2 回 (4 月 18 日)</u> ③医療安全管理学総論 ④患者からの苦情相談への対応 <u>第 3 回 (4 月 25 日)</u> ⑤自治体の医療安全支援センターの取り組み ⑥専門性の相互理解と共有 <u>第 4 回 (5 月 9 日)</u> ⑦試験 ⑧事故調査委員会と報告書のあり方		
教科書・参考書等	【参考書】 ・ヘルスケアリスクマネジメント 中島和江・児玉安司 (医学書院) ・医療安全ことはじめ 中島和江・児玉安司 (医学書院) ・その他、講義の際に、必要に応じて、紹介する。		
成績評価の方法	試験により評価する。		
他の授業との関連	本講義に関連して、医療安全管理学実習を実施する。実習の履修は、本講義を履修するための必要条件ではない。		

科 目 名	医療安全管理学実習 [科目番号：4 1 2 1 8 3 1 9]		
学 期	夏季休業期間	単 位 数	0.5 (90 分×12 回)
曜日・授業時間帯	9 月 24 日、25 日・1～6 時限		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	児玉安司		
授業の目的	医療安全管理とは、①有害事象の未然防止、②発生した有害事象への適切な対応、③患者からの苦情相談への対応のための取り組みである。 本授業では、各種の医療機関で多様な医療安全対策と患者苦情対応の体制が整備されつつあることを認識し、医療安全管理活動に関する今後のあり方について考察することを目的とする。		
授業の方法	東大病院や他の医療機関での聞き取り調査および観察実習とそれに基づく今後のあり方についての考察。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	2 日間で下記プログラムの実習を行うものとする。 1. <u>チームワーク・トレーニングと、医療事故の事例分析 (RCA)</u> コミュニケーション・ツール (TeamSTEPPS) についてのグループワーク RCA の概要と実際 事例を用いた RCA グループワーク グループ発表・総括 ※東大病院の職員 (参加希望者) とともにグループ討議を行う 2. <u>医療機関での調査・実習</u> 都内病院見学とディスカッション ・医療安全対策部門の概況・活動の見学 ・患者相談・臨床倫理部門の概況・活動の見学 ・他の医療機関の医療安全対策についての報告会		
教科書・参考書等	【参考書】 ・RCA 根本原因分析法実践マニュアル 石川雅彦 (医学書院) ・医療安全ことはじめ 中島和江・児玉安司 (医学書院) ・その他、講義の際に、必要に応じて、紹介する。		
成績評価の方法	出席状況および実習報告書の内容で評価する。		
他の授業との関連	別に実施する医療安全管理学 (講義) を履修することが望ましい。ただし、必要条件ではない。		

科 目 名	保健行政・健康危機管理学実習 [科目番号：4 1 2 1 8 3 2 1]		
学 期	夏季休業期間	単 位 数	2 単位
曜日・授業時間帯	集中（9 月上旬～中旬を予定している）		
場 所	保健所、研究室等		
担 当 教 員	小林廉毅 田中良明（足立区竹の塚保健総合センター長） 庄野禎二（埼玉県秩父保健所長）		
授 業 の 目 的	健康危機管理や保健行政一般に関して、各種資料の収集、各種疫学指標の算出、原因に関する仮説の構築、現実的な対応策の立案及びその実施と評価、対策実施に関わる組織・態勢のマネジメントなどについて実習する。 （本実習の対象者は将来、公衆衛生行政に進むことを希望しており、実習先の指定する資格を取得している者に限定する。また、受け入れ施設の都合により履修人数を制限することがある。）		
授 業 の 方 法	保健行政・健康危機管理の現場に身をおき、保健所長などの各種専門職の役割を理解しながら、実習を行う。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	実習先（保健所等）における実習計画に基づいて行う。		
教科書・参考書等	「衛生行政大要」（日本公衆衛生協会、2009 年）		
成績評価の方法	出席、実習態度、実習報告書に基づいて評価する（可否で判定）。		
他の授業との関連	「健康危機管理学」の履修を必須とする。		

科 目 名	健康環境医学 [科目番号：41218322]		
学 期	冬学期	単 位 数	1 単位
曜日・授業時間帯	月曜・2 時限		
場 所	医学部教育研究棟 13 階公共健康医学専攻（SPH）講義室		
担 当 教 員	遠山千春		
授 業 の 目 的	ヒトは、大気、水、食品などの環境から様々な有害な化学物質を体内に取り込んでいる。他方、事故により、中毒量を取り込む場合もある。 様々な有害物質による健康影響に関する歴史から今日的な問題についての講義を行う。また、健康影響の同定、量反応関係、有害影響が現れる病態発生のメカニズムとその影響を初期に診断するためのバイオマーカー、環境防御対策などについての基本的な知識と考え方を教授する。		
授 業 の 方 法	担当教員等による講義で、全 8 回の予定。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	1) 10 月 1 日 環境・人間・生態系——健康環境科学とは？ 遠山千春（疾患生命工学センター・健康環境医工学） 2) 10 月 15 日 個人差を考慮した予防医学 -分子疫学への期待- 加藤貴彦（熊本大学大学院医学系研究科 環境生命科学） 3) 10 月 22 日 PCB 類およびダイオキシン類の健康被害 -油症からの教訓- 古江 増隆（九州大学医学部皮膚科） 4) 10 月 29 日 化学物質の代謝的活性化と不活性化：個人差の諸要因 山田英之（九州大学薬学研究院・生命薬学） 5) 11 月 5 日 大気汚染と健康影響 嵯峨井 勝（つくば健康生活研究所） 6) 11 月 12 日 環境化学物質のシグナル伝達機能 熊谷嘉人（筑波大学医学医療系 環境医学分野） 7) 11 月 19 日 化学物質への曝露と疫学調査研究 香山不二雄（自治医科大学 環境医学部門） 8) 11 月 26 日 メチル水銀の毒性影響とその分子メカニズム 永沼 章（東北大学大学院薬学系研科 生体防御薬学）		
教科書・参考書等	適宜、指定する。		
成績評価の方法	すべての出席とレポート提出を前提として、両者をほぼ同じ比重で評価する。		
他の授業との関連			

科 目 名	インターンシップ [科目番号：41218411]		
学 期	夏期休暇期間または冬期休業期間	単 位 数	2 単位
曜日・授業時間帯	9 月中の 2～3 週間（募集 7 月中旬）または 3 月中の 2～3 週間（募集 1 月中旬）		
場 所	公衆衛生関連の試験研究機関・シンクタンク・NGO、企業の臨床試験担当部門、医療機関の情報担当部門など（下記受入先一覧参照）		
担 当 教 員	大橋靖雄		
授 業 の 目 的	公衆衛生の現場（公衆衛生関連の試験研究機関・シンクタンク・非営利団体等、医療機関）などに身を置いて、実務の中から、自ら取り組むべき課題を見つけ、分析を行い、対策を立案する能力を身に付ける。		
授 業 の 方 法	学生が自らの関心に応じて、あらかじめ用意されたインターンシップ受け入れ先（組織、下記参照）を担当教員に提示した後、担当教員がコーディネーターとなり、学生の意欲や適性と受け入れ先の状況に応じて、受け入れ先と調整を行い、派遣先を決定後、実施する。＊募集期間 7 月中旬および 1 月中旬		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	インターンシップ実施にあたって、あらかじめ、学生、責任教員及び受け入れ先と綿密に打ち合わせの上、実習計画を立て、それに基づいて実習を行う。 ○受入先一覧		
	No	インターンシップ受入先及びテーマ（予定）	
	1	独立行政法人 国立健康・栄養研究所 栄養疫学に関するデータ収集および分析の援助	
	2	NPO メンタルケア協議会 ①診療所新規受診患者の追跡調査データ収集と分析の援助 ②自殺相談ダイヤル相談記録から、相談者傾向の分析等の援助 ③被災地こころの相談電話のボランティア業務の手配や実績収集の援助	
	3	財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構 ①認知症ケアに関する文献調査 ②医療経済評価また地域連携パスに関する研究補助	
	4	独立行政法人国立がん研究センター がん対策情報センターがん情報・統計部 乳癌疫学研究（コホート研究など）の計画と実施に対する支援	
	5	財団法人 パブリックヘルスリサーチセンター 臨床研究支援事業（CKD コホート研究、生活習慣病に関する臨床試験など）に関連したデータ収集および分析の援助	
	6	NPO 日本臨床研究支援ユニット 乳癌検診・大腸癌検診・循環器領域などの大規模臨床試験に関連した研究管理とデータ管理の援助	
	7	独立行政法人国立国際医療研究センター 国際臨床研究センター 医療情報解析研究部医学統計研究室（予定） 厚生労働省戦略研究（糖尿病、AIDS、自殺）の研究管理とデータ管理	
	8	株式会社 マッキンゼーヘルスケアワールドワイドジャパン ①「働く」を科学する：元気な職場のつくり方 ②保健事業の評価のありかたに関する検討 ③自殺予防に関する地域介入プログラムの立案	
	9	特定非営利活動法人 ヘルスサービス R&D センター ①奈良県医療再生計画に関わる調査・データ収集・分析、医療機関訪問等 ②奈良県における救急医療システムの構築等	

	10	株式会社 三菱総合研究所（夏季のみ） 保健、医療、介護に関わるプロジェクト分析やコンサルティング業務などについて体験する
教科書・参考書等	特に指定しない。	
成績評価の方法	出席、実習態度、インターンシップ報告書及び報告会での発表に基づいて評価する。	
他の授業との関連		

科 目 名	公共健康医学特論 [科目番号：41218412]		
学 期	夏学期	単 位 数	2 単位
曜日・授業時間帯	月曜・4時限（13 週）；補講分として5月28日4限		
場 所	医学部教育研究棟13階 公共健康医学専攻（SPH）講義室		
担 当 教 員	公共健康医学専攻 担当教員（調整幹事 臨床疫学・経済学分野）		
授 業 の 目 的	公共健康医学専攻の全13分野から、それぞれ公共政策・活動との接点となる具体的取り組み事例や課題をテーマとして取り上げ、公共の厚生に資する健康科学のあり方と、その研究・実践上の克服すべき課題について、理解を深める		
授 業 の 方 法	・ 13担当分野から、公共の観点に則したテーマを選んで講義を行う。 ・ テーマごとに資料が配布される。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	1) 4月16日 インTRODクシヨン 公共健康医学の視座（橋本） 2) 4月23日 Public Health Informatics 概説（小山） 3) 5月7日 医療倫理学概説（赤林） 4) 5月14日 公衆栄養学・予防栄養学の役割と問題点（佐々木） 5) 5月21日 精神保健疫学の研究とその成果（川上） 6) 5月28日 最近の健康増進に関わる公共政策（李） 7) 6月4日 死因究明と医療の管理に係わる行政機関について（吉田） 8) 6月11日 保健医療におけるサイエンスコミュニケーション（石川・木内） 9) 6月18日 ITによる生涯健康情報の活用（大江） 10) 6月25日 環境と中毒：歴史からの教訓と健康科学の役割〔遠山〕 11) 7月2日 産科医療補償制度（小林） 12) 7月9日 老年社会科学と地域社会（TBA） 13) 7月23日 臨床試験成績の解釈と公共への発信（大橋）		
教科書・参考書等	各講義毎に異なるので適宜指示する。		
成績評価の方法	各回ごとに出席・レポートなどを総合的に評価して判定する。		
他の授業との関連	他の授業のすべてと関連を有する。		

科 目 名	課題研究 [科目番号：41218511]		
学 期	通年	単 位 数	6 単位
曜日・授業時間帯	指導教員の指定する曜日・時間帯		
場 所	指導教員の指定する研究室		
担 当 教 員	各指導教員		
授 業 の 目 的	公衆衛生学の諸領域における高度な問題解決能力を身に付ける。		
授 業 の 方 法	特定の研究課題について、現地調査（フィールドワーク）。資料収集、分析・統計解析、論文作成などを指導教員の指導のもとで行う。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	—		
教科書・参考書等			
成績評価の方法	出席状況及び課題研究の成果（課題研究論文）で評価する。		
他の授業との関連			

6. 公共健康医学専攻成績評価規則

公共健康医学専攻成績評価規則

制定 平19. 4. 1

(成績の区分)

第1条 学生の成績は、A+, A, B, C, F の5段階とし、C以上を合格とする。ただし、特別の理由があるときは合格・不合格の2段階評価とすることができる。

(成績区分の標準)

第2条 A+, A, B, C, F の基準は、下記の通りとする。A+はおおむね受講者総数の10パーセントとする。

A+ 90点以上

A 80点以上

B 70点以上

C 60点以上

F 不合格 (60点未満)

(成績評価)

第3条 成績は、筆記試験及び平常点によって評価する。ただし、実習科目並びに相当の理由がある演習科目、受講生の少ない科目等では、レポート等の提出によって筆記試験に代えることができる。

2 各教員は、成績評価に際してどのような要素がどの程度考慮されるかにつき、学生が履修する前に公表しておくものとする。

3 教員による採点は、原則として素点によって行う。ただし、学生には素点ではなく、5段階評価で通知する。

(成績に関する説明)

第4条 学生は、自己の成績について、成績の通知を受けてから1ヶ月以内に限り所定の方式に従い、教員に対して説明を求めることができる。

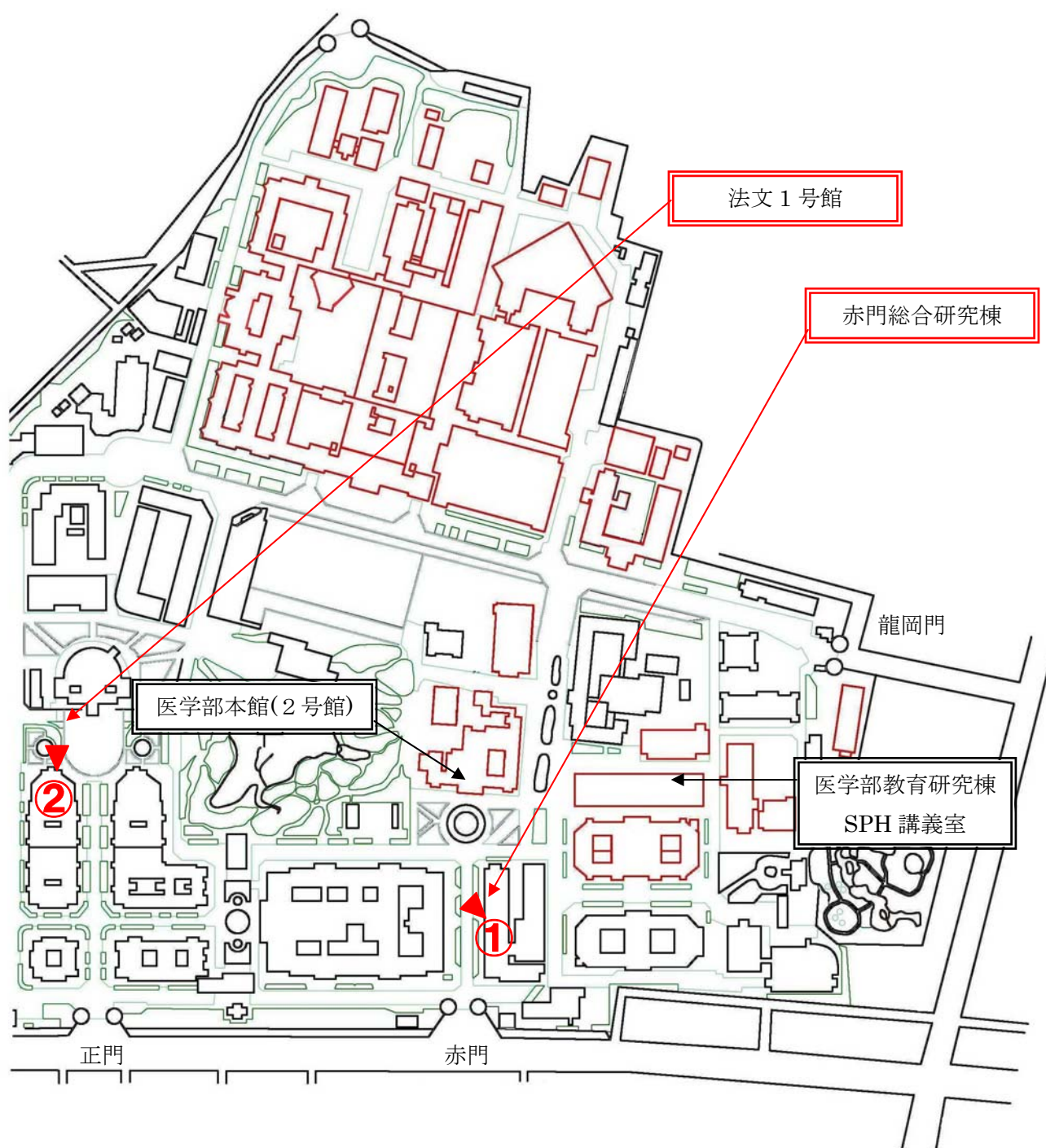
(筆記試験の実施)

第5条 筆記試験実施の細目は、別に定める。

以上

7. 公共政策大学院との合併科目について

	科目番号	科目名 (担当)	単位	学期	曜日	時限	開講場所
P. 46	5113140	社会保障政策 (岩本)	2	夏	月	2	経済学部赤門総合研究棟 地下1階 第8教室 ①
P. 47	5121090	社会保障法政策 (岩村・嶋崎)	2	冬	金	6	法文1号館3階 19番教室 ②
P. 48	5123090	医療政策 (岩本ほか)	2	冬	火	2	経済学部赤門総合研究棟 地下1階 第8教室 ①



時間割コード Course Code	5113140	使用言語 Language	日本語		
授業科目名	社会保障政策				
Course Title	Social Security Policy				
学期 Semester	夏(Summer)	曜日・時限 Day/Period	月(Mon)2 [10:30-12:10]	単位数 Credits	2
担当教員	岩本 康志				
Faculties	IWAMOTO Yasushi				
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	年金・公的扶助制度について、制度設計の考え方、政策が貯蓄・労働供給・世代間所得分配に与える影響を中心に、経済学的な分析を学ぶ。				
授業のキーワード Keywords	社会保障				
授業計画 Schedule	1 序論 2 年金(1):温情主義 3 年金(2):モラルハザード 4 所得再分配 5 年金(3):財政方式 6 社会保障負担 7 少子化の影響				
授業の方法 Teaching Methods	講義形式による				
成績評価方法 Method of Evaluation	定期試験による				
教科書 Required Textbook	小塩隆士『社会保障の経済学(第3版)』, 日本評論社。				
参考書 Reference Books					
履修上の注意 Notes on Taking the Course	「経済学基礎」又は「Microeconomics」をすでに履修しているか, 同時に履修していることを前提とする。				

時間割コード Course Code	5121090	使用言語 Language	日本語		
授業科目名	社会保障法政策				
Course Title	Social Security Law Policy				
学期 Semester	冬(Winter)	曜日・時限 Day/Period	金(Fri)6 [18:30-20:10]	単位数 Credits	2
担当教員	岩村 正彦 / 島崎 謙治				
Faculties	IWAMURA Masahiko / SHIMAZAKI Kenji				
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	現代の国家においては、社会保障の法政策は、高齢化・少子化の進展、経済成長の低迷、経済活動の国際化など、社会保障制度をめぐる経済・社会環境の大きな変化のゆえに、非常にダイナミックな動きを見せている。しかも、社会保障制度は、国民の生活に直結し、かつ国の経済活動にも影響を与えるために、現代行政の中でも大きな位置を占めるに至っている。 この授業は、現代行政において重要性を増しつつある社会保障の法政策について、実際に国の政策立案を担当した、あるいは担当している行政実務家を授業協力者として迎えて行う。授業は、総論と、それをもとにした各論という組立で検討を行う。総論においては、社会保障と経済、社会保障と人口問題、社会保障の国際比較などを検討する。各論においては、主として、医療、年金、社会福祉サービスの 3 つの分野を取り上げ、それぞれの分野において、各分野における最近の法政策の論点をケーススタディーの形で考察する。				
授業のキーワード Keywords	社会保障法, 社会保険, 高齢化, 医療制度, 年金制度, 介護保険制度				
授業計画 Schedule	1. 少子高齢化・経済成長と社会保障(人口構造・経済構造と社会保障) 2. 社会保障・法・政策(社会保障と法・制度・政策の意味) 3. 日本の社会保障制度の沿革(日本の社会保障の歴史と現状) 4. 日本の社会保障の体系と特質(社会保障の国際比較、社会保険方式の意義) 5. 医療保険制度 1(医療保険制度の概説と政策課題) 6. 医療保険制度 2(医療保険制度体系論) 7. 医療供給制度 1(医療供給制度の基本問題と政策課題) 8. 医療供給制度 2(医療供給制度の政策手法。診療報酬制度等) 9. 介護保険制度(介護保険制度の概説と政策課題) 10. 生活保護および福祉制度(生活保護および福祉制度の概説と政策課題) 11. 年金制度 1(公的年金制度の概説と政策課題) 12. 年金制度 2(前回の補足および企業年金制度の概説と政策課題) 13. 社会手当(児童手当・児童扶養手当の概説と政策課題) 14. 社会保障と税制(社会保障・税の一体改革等) 15. 総括(全体のまとめ)				
授業の方法 Teaching Methods	講義方式による。				
成績評価方法 Method of Evaluation	レポートによる。				
教科書 Required Textbook	島崎謙治『日本の医療－制度と政策』(東京大学出版会, 2011 年)。椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障(第 8 版)』(有斐閣, 2011 年)。				
参考書 Reference Books	岩村正彦『社会保障法 I 』(弘文堂, 2001 年)、西村健一郎・岩村正彦・菊池馨実編『社会保障法 Cases and Materials 』(有斐閣, 2005 年)、堀勝洋『年金保険法: 基本理論と解釈・判例(第 2 版)』(法律文化社, 2011 年)。				
履修上の注意 Notes on Taking the Course					

時間割コード Course Code	5123090	使用言語 Language	日本語		
授業科目名	医療政策				
Course Title	Health Policy				
学期 Semester	冬(Winter)	曜日・時限 Day/Period	火(Tue)2 [10:30-12:10]	単位数 Credits	2
担当教員	岩本 康志 / 辻 哲夫 / 埴岡 健一 / 井伊 雅子				
Faculties	IWAMOTO Yasushi / TSUJI Tetsuo / HANIOKA Kenichi / II Masako				
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	医療の進展により、われわれは健康寿命の伸長という恩恵を受けている。一方で、医療が高度化するなかで、多くの政策課題が生まれている。効率的で良質の医療サービスが提供されるために何をなすべきか。この授業では、医療政策をめぐる現代的課題を理論的・実践的に講義していく。				
授業のキーワード Keywords	医療, 医療経済学, 医療政策				
授業計画 Schedule	以下のような話題をとりあげてを予定している。 医療制度とこれからの課題、 市民主体の医療、 地域主導の医療、 地域医療と地方財政、 医療の質と情報、 医療・保健統計、 アジアの医療健康の経済価値、 保険の基礎理論、 医療保険のモラル・ハザード医師誘発需要、 医療保険の逆選択、 少子・高齢化と医療・介護保険財政				
授業の方法 Teaching Methods	講義形式による				
成績評価方法 Method of Evaluation	定期試験, レポートによる				
教科書 Required Textbook	橋本英樹・泉田信行編『医療経済学講義』, 東京大学出版会 東京大学医療人材育成講座編『「医療政策」入門』, 医学書院				
参考書 Reference Books					
履修上の注意 Notes on Taking the Course					

[MEMO]

[MEMO]